

地球環境に配慮できる建築デザイナー・エンジニアを育てる

No.
123
海建

カーケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況

目次

| | | | |
|-----------------------------|----|----------------|----|
| 令和7年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当 | 2 | 教員研究業績・研究室活動業績 | 20 |
| 令和6年度 学生受賞 | 3 | 令和7年度 大学院情報 | 33 |
| 研究室紹介 | 4 | 卒業生の就職状況 | 34 |
| 博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計 | 18 | 学科イベントカレンダー | 36 |

● 令和7年度 研究室説明会日程

ゼミ希望調査締切：4月16日 決定：4月18日

| 時間 日・教室 | 1時限 | 2時限 | | 3時限 | | 4時限 | |
|-------------------|-----------------|----------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------|---------------------------------|--------------------|
| | 9:50~10:30 | 10:40~11:20 | 11:30~12:10 | 13:20~14:00 | 14:10~14:50 | 15:00~15:40 | 15:50~16:30 |
| 4月3日(木) 1325教室 | 北嶋研究室 [構造工学] | 高橋研究室 [建築構法] | 福井研究室 [コンクリート 構造工学] | 恵藤研究室 [海洋構造デザイン] | 居駒研究室 [海洋空間利用工学] | 星上研究室 [沿岸環境防災] | 吉田研究室 [海洋環境情報学] |
| 4月4日(金) 1325教室 | | 佐藤研究室 [建築デザイン・計画] | 長谷川研究室 [建築意匠・ 建築設計] | 江川研究室 [医療・福祉 建築計画] | 山本研究室 [沿岸地域計画学] | ウォーターフロント 都市工学研究室 (寺口・桜井) | |

令和7年度 教室主任・クラス担任

| | 教員氏名 | 研究室 | 電話番号 | E-mail |
|-------------|-------|-------|--------------|-----------------------------------|
| 教室主任 | 福井 剛 | 1366 | 047-469-5527 | fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp |
| クラス担任 B1 年 | 恵藤 浩朗 | 1345 | 047-469-5730 | eto.hiroaki@nihon-u.ac.jp |
| | 吉田 毅郎 | 1332A | — | yoshida.takero@nihon-u.ac.jp |
| クラス担任 B2 年 | 佐藤 信治 | 1353 | 047-469-5419 | sato.shinji@nihon-u.ac.jp |
| | 菅原 遼 | 1352 | 047-469-5424 | sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp |
| クラス担任 B3 年 | 星上 幸良 | 1335 | 047-469-5396 | hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp |
| | 江川 香奈 | 1365 | 047-469-5426 | egawa.kana@nihon-u.ac.jp |
| クラス担任 B4 年 | 高橋 孝二 | 1346 | 047-469-5568 | takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp |
| | 寺口 敬秀 | 1334 | 047-469-5526 | terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp |
| | 山本 和清 | 1362 | 047-469-5483 | yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp |
| クラス担任大学院 | 北嶋 圭二 | 1361 | 047-469-5385 | kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp |
| クラス担任(学生相談) | 寺口 敬秀 | 1334 | 047-469-5526 | terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp |

令和7年度 学科校務担当

| | 教員氏名 | 研究室 | 電話番号 | E-mail |
|-------|-------|-------|--------------|----------------------------------|
| 就職指導 | 高橋 孝二 | 1346 | 047-469-5568 | takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp |
| | 江川 香奈 | 1365 | 047-469-5426 | egawa.kana@nihon-u.ac.jp |
| | 寺口 敬秀 | 1334 | 047-469-5526 | terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp |
| 留学生担当 | 吉田 毅郎 | 1332A | — | yoshida.takero@nihon-u.ac.jp |

学科
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美
関野 まゆみ

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
sekino.mayumi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●優等賞（学部4年修了時の成績優秀者〔学部〕）

上原阜暉 小出裕輝乃 姫野由衣 菊地康太

●理工学部長賞（各種受賞功績者〔学部〕）

鈴木健斗：日本沿岸域学会令和6年度「研究討論会」（第36回）
優秀講演表彰 受賞

「浮体上への越波がムーンプール付きバージ型浮体の定常波漂流力に与える影響について」（居駒研究室）

竹内俊介：日本沿岸域学会令和6年度「研究討論会」（第36回）
優秀講演表彰 受賞

「大規模水害時の避難リスクに関する研究－江東5区の避難所収容能力の実態－」（海洋建築・建築デザイン研究室）

中澤響生：日本沿岸域学会令和6年度「研究討論会」（第36回）
優秀講演表彰 受賞

「連結浮体式太陽光発電の運動特性と索張力特性に関する実験的研究」（居駒研究室）

芦ヶ原治希：2024年度日本建築学会大会学術講演会（海洋建築部門）
若手優秀発表賞 受賞「港湾区域における放置艇対策の現状と課題」（ウォーターフロント都市工学研究室）

藤澤佐翔：2024年度日本建築学会大会学術講演会（海洋建築部門）
若手優秀発表賞 受賞「垂直軸型風車に作用する風過重の特性把握」（恵藤研究室）

●加藤賞（最優秀修士論文賞〔専攻・桜建会〕）

江口琢菜：中高層RC造集合住宅を対象とした損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究（北嶋研究室）

内藤隼汰：多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの構造性能に関する実験的研究－梁端接合部に関する検討－（高橋研究室）

鈴木健斗：ムーンプールを有するバージ型浮体の運動に与える非線形波力の影響に関する基礎的研究（居駒研究室）

●海建優秀賞（最優秀卒業研究賞〔学科〕）

唐澤侑太：次世代制震構造システムを用いた木造多層建物に関する研究－連層耐震壁脚部の回転摩擦ダンパーの実験的研究－（北嶋研究室）

若松瑠苒：船橋水景を宿す－船橋の水辺に流るる生業と文化を蓄積する記憶装置－（佐藤研究室）

●桜建賞（優秀卒業研究賞〔桜建会〕）

加藤 奏：周速比とソリディティがエンドプレートに有する垂直軸型水車に作用する流体力に与える影響に関する実験的研究」（居駒研究室）

遠藤拓斗・真島良弥・小西悠斗・木幡ヒカル：RC部材のせん断伝達機構に関する実験的研究（福井・柴山研究室）

大竹克典：ドローン搭載型レーザースキャナーを用いた崖海岸の地層判別に関する基礎的研究（星上研究室）

●海建賞（優良卒業研究賞〔学科〕）

根本祐輔：ショッピングセンターの津波避難ビルの指定実態とその有用性に関する研究－南海トラフ地震津波対策特別強化地域を対象として－（海洋建築・建築デザイン研究室）

神田 匠・根岸拓末：ブイ・クランプウエイトを用いたチェーンカテナリー係留の浅海域における係留特性（恵藤研究室）

草野真司：水上バイク利用に関する条例およびローカルルールに関する研究－全国の湖沼および海水浴場を対象とした調査－（ウォーターフロント都市工学研究室）

菊池康太：川越再群落計画－時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ－（海洋建築・建築デザイン研究室）

宮本将来・寺崎悠登：沿岸集落における災害時の孤立化発生要因に関する調査研究（山本研究室）

奥山颯太：巨大地震発生後の道路状況を考慮した津波の避難困難地域の抽出と避難準備時間に関する基礎的研究（相田研究室）

宮長井晴彦：木造と鉄筋コンクリート造による平面混構造建物の構造特性に関する解析的研究（高橋研究室）

●桜工賞（学科の名声向上や学科活動への貢献〔校友会海洋建築部会〕）

鈴木貴之・福永佳晏：学部・学科広報活動への多大なる貢献を称えて
内藤隼汰：在学中の一級建築士試験「学科の試験」合格を称えて
小野田鼓・薄井李空・齊藤慶悟：国際コンペ「Virtual Design World Cup」でのグランプリ（世界一）受賞を称えて

●令和6年度（第68回）理工学部学術講演会優秀発表賞

江口琢菜：中高層RC造集合住宅を対象とした損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究－その1 1次モード応答抽出のためのフィルタの検討－（北嶋研究室）

鈴木貴之：港湾施設の改修事例に見る港湾地域の土地利用計画の変更過程に関する研究（海洋建築・建築デザイン研究室）

小嶋英志朗：博物館の諸室配置からみた浸水リスクの実態に関する研究－三大湾臨海部に隣接する都府県を対象として－（海洋建築・建築デザイン研究室）

鈴木健斗：ムーンプールを有するバージ型浮体の運動応答に与える越波やスロッシングの影響について（居駒研究室）

安藤大翔：ジャッキアップ式リグ再利用の提案－インドネシアにおける防災施設としての設計（佐藤研究室）

石橋遼祐：津波防災の共助に関する実態分析（星上研究室）

若松瑠苒：船橋の歴史と地形から再考する河川との共生（佐藤研究室）

根本祐輔：ショッピングセンターの津波避難ビルへの指定実態とその有用性に関する研究－南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として（海洋建築・建築デザイン研究室）

伊藤泰子：没水平板における規則波の集波効果に関する基礎的研究（恵藤研究室）

藤澤佐翔：開閉式プレートの使用材料および開閉角制御に伴う交差軸風車の風車トルクに関する検討（恵藤研究室）

建築デザイン・計画研究室

1353 室

Teaching Staff



准教授
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大前提です。建築をデザインすることは大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイと学んでいきたいと希望しています。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画することのことも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、官僚の他デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%（当研究室比）を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施します（写真1）。今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3Dスキャナーを活用した空間アーカイブ（写真2）
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン
- ・Urban Plan program in Japan (ULI) への参加

〈建築計画テーマ〉

- ・国指定登録有形文化財の調査・研究
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究



写真1 若松瑠苒卒業設計「船橋水景を宿す」



写真2 デジタルツイン「能代市旧切石小学校」再生計画



写真3 夏季合宿「エスコンフィールド北海道」見学



写真4 第12回ヒューリック学生アイデアコンペ：富永玲央、若松溜苒

〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して九州や東北の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。2023年は、沖縄の建築の見学調査した合宿を行いました。合宿期間中においては、沖縄の気候風土が建築物に与える影響を調べ、その成果を歴史的空間再編コンペティション2023に応募するなど、実践的なゼミ活動を行っています（写真3）。

2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。また、研究室活動としては2022年から横浜市のN地区及びY埠頭における都市計画をデザインしています。さらにアメリカのAIAアジアとの共同プログラムとしてUrban Plan program in Japan (ULI) へ参加しております。

●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行っています。ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施しています。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しております。2023年度は、共立女子大との共同プログラムの一環で、コンペに応募し入賞を果たしています（写真4）。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff

准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT (On the Job Training) に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ (旧アクセスディンギー)」という誰もが (小さい子供から高齢者・障がい者までも含む) 海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」(千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置つけた南房総地区における大々的なイベント)、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」(毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント)、「船橋港まつり」(毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業を中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり)では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し(写真1、2)、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりについて、

実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 沿岸域の防災まちづくりに関する手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- 1) 海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計 (再生・復興・復活・改革)
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

写真1 「たてやま海まちフェスタ」
ハンザ体験乗船会

写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会

写真4 新入ゼミ生歓迎会
(東京都臨海広域防災公園見学会)

建築意匠・建築設計研究室

1356 室

Teaching Staff



准教授
長谷川 洋平

●研究室紹介

本研究室は昨年度開設された研究室です。主な活動内容は、建築と都市に関する意匠論的研究および設計です。海洋建築工学科ではウォーターフロントの都市・土木に関わる巨大なスケールから、親水空間におけるヒューマンスケールまで広範なスケールの環境を設計対象としており、本研究室では、こうした環境への配慮を前提とした建築のあり方について「ランドスケープとしての建築」と捉え、その設計方法について研究室の皆で考えます。

本研究室には、建築意匠・設計に高い関心を持ち、なによりも「建築が好き」である学生に来てもらいたいと思っています。そうした学生たちとともに、建築が成立する環境や社会、建築を成立させるための論理について学んでいきたいと考えています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では4年次に「設計」か「論文」のどちらかを選び取り組みますが、設計分野への就職を考える学生には「設計」の選択を勧めます。大学院へ進学する場合には、建築意匠論に関する研究（意匠論的分析をふまえた設計提案付き論文も含む）に取り組んでいただきたいと考えています。

【設計】

- ・環境や場所性を考慮したランドスケープとしての建築
- ・建築の保存・再生 など

卒業設計は壮大な自作自演の物語を紡ぐことだと考えます。物語の結末を鮮やかに描くまで推敲を重ねます。

【論文】

- ・建築家の言説に関する研究
- ・水辺環境に関する建築・都市の空間構成の研究
- ・建築における意匠と技術の関係に関する研究 など

建築や都市の形成に関わる仕組みの一端を明らかにします。建築意匠に関する知識と、仮説を立て検証し論理を構築する力が必要となります。

●ゼミナールのテーマ

3年次に実施される設計製図の授業（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）において、真摯に課題に取り組み自身の作品をつくるのが重要です。その取り組みと並行して、以下の活動をおこないます。

- 1) 読書ゼミ：建築を設計するためには、建築の歴史を知ることが欠かせません。主に近現代の建築、建築家について調べ、発表会をおこないます。
- 2) まち歩きゼミ：首都圏には数多くの建築作品が存在します。優れた建築を知り、実際に体験し感動する行為、建築空間

に打ちのめされるような経験が必要だと考えます。研究室の皆で実際にまちを歩き、建築作品やまちの環境・歴史について学び、懇親会をおこないます。

- 3) 図書館ゼミ：研究活動に関連する資料について建築専門誌を中心に調査し資料収集をおこないます。
- 4) 設計プロジェクト：設計コンペや実施プロジェクトの機会があれば研究室で取り組みます。

●年間スケジュール

4月：ゼミ生歓迎会、6月：まち歩きゼミ①、8～9月：読書ゼミ発表会／ゼミ合宿、11月：まち歩きゼミ②、3月：まち歩きゼミ③

※設計プロジェクト等により変更の場合があります。

●着手条件

研究室の説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。また面談の際には、デザイン演習の授業で制作した作品を2点以上持参してください。大学院進学希望についても面談時にご相談ください。



まち歩きゼミ：千葉市内の建築めぐり



読書ゼミ：発表会



建築作品：遊戯施設

医療・福祉建築計画研究室

1365 室

Teaching Staff

准教授
江川 香奈

●研究室紹介

当研究室では、医療・福祉関連施設を中心とした内容を扱っています。また、福祉的環境という観点から、子どもや高齢者にとっても利用しやすい施設も対象としています。その中でも特に沿岸域や水辺に立地するまたは水に関連する空間を含めた内容を扱っています。これらの今後の望ましい建築設計に資する知見を得ることを目的とした研究・設計活動を行っています。

一方で、近年は様々な自然災害が頻発しており、近々の災害発生も複数予測されています。このため、平常時だけでなく、災害発生後の建物の使用、及びその施設での活動継続を考慮した施設設計・計画に関する研究も並行して実施しています。

研究活動の成果は社会に還元し、平常時も災害時も利用しやすい施設環境の実現と、その効果が沿岸域を含めた防災力の強化につながることを目指します。

●ゼミナール活動

医療・福祉環境を中心とした設計及び計画学研究に有用な基礎力を多角的に滋養するために、以下のような実地での各種施設見学会等の参加や、資料調査等を中心とした活動を実践します（掲載写真参照）。

- ・医療福祉施設の建築計画に関する講義
- ・施設見学（病院、福祉施設、図書館、事務所、商業施設など）
- ・医療救護所設営訓練での傷病者役担当
- ・学会主催の講演会の参加

- ・演習：医療救護所設置を考慮した公園デザインの提案
- ・演習：アンケートデータの入力と分析
- ・既往論文調査と卒業研究への準備

●卒業研究のテーマ

医療福祉関連施設、及び子どもや高齢者が主として関わる空間を対象としたテーマを扱います。3年次後期に設計が計画学研究かを選択し、それぞれの内容に沿った概要とスケジュールを組立てます。計画学研究を選択した場合はご自身の興味のあるテーマまたは、研究室で進行している研究内容の一部を担うかを選定できます。成果は学会等にて発表します。

【設計のテーマ例】

①高齢社会における農業活動を取り入れた温泉地の活性化プロジェクト

②水辺を活用した図書館を併設する福祉関連施設

【計画学研究のテーマ例】

①海を臨むことができる病院のインテリアデザイン

②自然環境を取り入れた病院の待合空間

③デイサービスセンターにおける屋外空間の効用

④災害時に対応可能な医療施設の実例と検証

⑤水辺を有する防災公園の整備状況と課題

⑥商業施設における帰宅困難者受け入れ対策

上記のテーマ以外でも実施できます。各自の意向、興味のある内容・分野をご相談ください。卒業設計・研究の内容を実践的に進められるように、現地での調査活動に取り組むことができるようにサポートします。また各自のテーマに沿った設計・研究活動を通じ、利用者のニーズや利用状況等を的確に把握・分析する研究手法と論文作成ができる力を修得できる環境を整備します。

●着手条件

医療福祉関連の施設・空間または子どもや高齢者に配慮した施設デザイン等に興味があり、入室を検討している学生は、事前に個別面談を受けてください。大学院進学についても相談時にお伝えください。



オフィスのリノベーション事例の見学



親水空間を有する都市空間の街歩き



子供の利用を主とした図書館建築の見学



病院建築見学会後の建物説明の聴講



医療救護所設営訓練の参加



福祉施設でのフィールドワーク

海洋建築・建築デザイン研究室

1352 室

Teaching Staff



助教
菅原 遼

特任教授
小林 直明

●研究室紹介

当研究室は、水環境と都市、建築、生活の観点から、生活環境の質的向上に資する水辺利用や海洋建築の計画的知見を得るための研究・実践に取り組んでいます。

< 研究活動 >

都市・建築・生活と水環境との関係を観察できる現地調査を大切に、都市部から農村部にかけての様々な水環境の調査を行います。そのため、「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています。研究成果は各種学会や地域イベント等においてプレゼンテーションを行い、他大学の研究者・学生や行政、企業、地域住民の方々との意見交流を図ることで、更なる研究の視点のブラッシュアップに取り組んでいます。

< プロジェクト(実践活動) >

地域連携による都市部を中心とした水辺空間の利活用に向けた計画提案や実証実験に取り組んでいます。水辺空間の利用管理に関わる多様なプレーヤー（行政、企業、住民組織等）との協働や交流を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養うことを重視しています。

< 卒業後の進路 >

主に建設業、建設コンサルタント、公務員等、建築・地域

計画の川上側に携わる仕事や建設現場の最前線で活躍する仕事等に就いています。研究室では、最前線で活躍する企業の方々に講演いただく「計画系キャリアセミナー」を定期的に開催しており、企業の方々との交流を通して学生自身の将来的なキャリアを考える機会をもうけています。

●卒業研究のテーマ

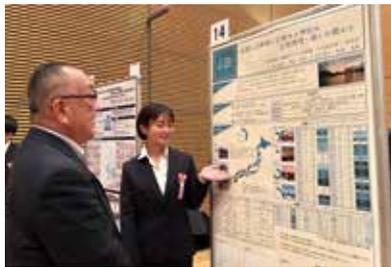
- ・都市の水辺の賑わい創出に関する研究
- ・港湾、漁港施設の現代的活用方策に関する研究
- ・水辺の利活用に資する多主体連携に関する研究
- ・地方都市や農漁村の地域活性化に関する研究
- ・水資源の保全活用方策に関する研究
- ・水害常襲地域の地域・建築的対応に関する研究
- ・水害（津波・洪水）リスク低減に関する研究
- ・沿岸部の復興まちづくり方策に関する研究

●主なプロジェクトテーマ(令和5・6年度)

- ・品川区天王洲地区の水辺の賑わい創出の実践と検証（エリアマネジメント組織・品川区との連携）
- ・荒川ロックゲートと荒川河川敷の空間整備に向けた将来ビジョンの検討（国・都・区との連携）
- ・江東区の内部河川及び隅田川の賑わい創出に向けた実践と発信（地域組織・江東区との連携）
- ・造船 Dock 跡地の利活用に向けた歴史的価値の検証（建設コンサルタント・横須賀市との連携）
- ・手賀沼の水辺空間整備の提案（建設コンサルタント・柏市との連携）
- ・横浜市の水辺活用ビジョン策定に向けたリサーチ（建設コンサルタント・横浜市との連携）

●着手条件

本年度のゼミナール受け入れは行いません。尚、当研究室での卒業研究の着手を希望する場合は、必ず菅原（計画系指導）との個別面談を受けてください。



学術講演会での研究発表



湧水地域のまち歩き（三島市）



ゼミ合宿での建築・水辺探訪



水辺の実証実験（隅田川）



リサーチ成果発表（隅田川マルシェ）



計画系キャリアセミナー

ウォーターフロント都市工学研究室

1334 室



●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室の目標にしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジュールングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

●ゼミナール活動

前期は、時間の管理や就活に向けた座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。7月～12月末までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は学会で発表します。本研究室では、ゼミ・卒研共に学生自身でテーマを企画、実行してもらいます。過去の卒業生の数だけテーマがあるので、研究のバリエーションの豊富さも本研究室の特徴です。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」をご覧ください。

●2024年度のゼミナール研究論文テーマ

- 上田真菜美：在日外国人への津波情報伝達方法の調査
 安里太希：沖縄県のホテル隣接海岸の管理実態の調査
 安藤大智：世界各地の海上都市プロジェクトの分析
 稲見龍生：東京臨海部の土地利用変化の調査
 片山太一：360°カメラを用いた河川景観の分析
 加藤碧基：水門と周辺空間の一体整備に関する調査
 川畑俊介：大阪市における津波避難ビル整備状況調査
 佐藤彼方：都市公園における水域の変遷に関する調査
 野中奈桜：河川の開渠・二層・暗渠化に関する調査
 野呂ひなた：水族館での隣接海域活



2024年ゼミ合宿（岡山・香川）



ゼミ生発表会の様子

用状況の調査

阿部和真：要配慮者の津波避難計画に関する調査

●過去の卒業研究論文テーマ例

(A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ・WFの住宅を選ぶ住民の居住環境意識
- ・海・河川・湖沼における水面利用の法整備
- ・ペット専用ビーチの整備と運営手法
- ・WFの特性に配慮した公衆トイレのデザイン

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ・港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策
- ・水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ・要塞跡・砲台跡の利活用方針
- ・SNS投稿内容からみた観光客の興味対象の分析

(C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ・漁港や港湾を活用した沿岸部の地域振興方策
- ・浮体施設の建造に伴う法規制の研究
- ・灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
- ・WFに立地するワーケーション施設の整備実態

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ・災害時の孤立化地域における船舶による支援
- ・津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度内容
- ・海水浴場などマリレジャー施設の津波避難計画
- ・市町村連携による避難困難地区の解消方法

※研究室に過去のリストがあるのでぜひみてください

●主な年間行事（③④は4年生以上）

- ① WF見学会・ゼミ生歓迎会（5月）、②三番瀬体験散策会（6月）、③日本沿岸域学会研究討論会での発表（7月）、④日本建築学会大会での発表（8月）、⑤夏季研修旅行（9月）、⑥日本大学理工学部学術講演会での発表（12月）、⑦ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑧研究室卒研発表会（2月）

●着手条件

研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。研究活動では自分の目で見て感じたことや興味・疑問を持ったことからテーマを決めるので、本研究室のフィールドに興味があり、現地に出向くことや体験することが好きな人が好ましいです。なお、基礎知識として、ウォーターフロント計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規などの科目を履修していることが望ましいです。

興味を持ったらまずは教員や研究室の学生に話を聞いてみてください！

海洋空間利用工学研究室

1341 室

Teaching Staff



教授
居駒 知樹

●研究室紹介

当研究室は海洋空間を幅広く利用することを目的とし、必要な海洋工学技術全般に関わる全ての情報収集と設計アドバイス、共同研究を行っています。最も得意とするのは、浮体式構造物を始めとする海洋構造物の波浪中での耐航性能評価であり、その理論的・数値的手法の開発や新規技術の提案を行っています。具体的な対象として海洋再生可能エネルギーと海洋資源利用に関わる海洋構造物を扱うことが多くなります。設計に至るまでの予測技術が確立されていない、または現象そのものが理解されていないなどの問題や課題を解決する研究を行っています。最近では潮流発電用水車、風力発電用風車等のシステムについて、浮体形状の提案を含めて行っています。また、世界で勝負できる性能の振動水柱型波力発電システムを提案し性能のさらなる向上を目指しています。ブラジルのサンパウロ大学と共同して海上都市や次世代海洋石油開発浮体システムなどの提案と技術研究なども行います。その他の海外の大学（スコットランド、中国）との共同研究は希望する学生を待っている状況です。当研究室は理論計算、数値計算、水槽実験を全て駆使して研究しています。

●卒業研究のテーマ

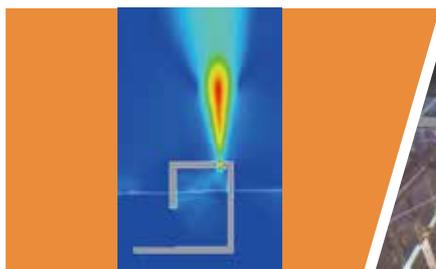
- ① 浮体式垂直軸型風車のタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の検討
- ② コンクリート製浮体式洋上風車システムの波浪中性能評価
- ③ 浮体式波力発電装置の高性能化と理論および数値解析法の開発
- ④ 浮体式垂直軸型潮流発電の実用化と性能評価
- ⑤ 太陽光発電用浮体システムの提案と波浪中性能評価
- ⑥ 大水深掘削技術に関わる流体现象の解明
- ⑦ 海上都市構想などの大規模浮体システムの提案と解析技術開発

●ゼミナール活動

- ・海洋再生可能エネルギーや海洋開発全般を取り巻く現状についての講義
- ・プロミラングによる数値解析スキルの習得
- ・浮体の基本特性に関する水槽実験
- ・ラズベリーパイを用いた電子工作
- ・Fusion360を用いた浮体模型の設計
- ・3Dプリンターを用いた浮体模型の製作および水槽実験＋数値計算による挙動推定

●着手条件

建築人材として海洋工学的な問題・課題解決に携わりたいと強く思えること、またそのための気力と体力のある学生を求めています。大学院への進学希望者を歓迎します。浮体式構造物を利用した海洋空間利用の提案と研究に興味がある、世界の中でこの分野に関わりたいなどの学生を歓迎。研究室での説明・相談を随時受け付けます。



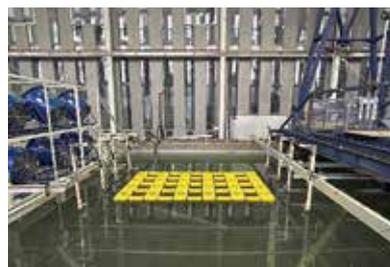
振動水柱型波力発電装置の開発



浮体式可変ピッチ VAMT の開発と実海域実験



浮体式ツイン垂直軸型風車の開発



浮体式太陽光発電や海上都市計画に応用される浮体技術研究



垂直軸水車の流体力特性の水槽実験

海洋構造デザイン研究室

1345 室

研究室の学生達と行った夏合宿
(長野県)

Teaching Staff

准教授
恵藤 浩朗

●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、海洋建築物の実現に向け技術的な課題を解決する研究活動を展開しています。「海」や「構造物」が持つ価値を最大限に発揮するデザインを考え、検証と改善を繰り返しクオリティの高いものを生み出す「デザイン思考」を身に付けられるよう、皆で“楽しく”学べる研究室を君達と一緒に創れたらと考えています！

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海的作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。またテーマにより企業との共同研究もあります。

- 1) 新しいコンセプトを持つ海洋建築物の提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の波浪中応答解析や構造解析による各種性能評価
- 3) 浮体式洋上風力発電施設に作用する風荷重解析と風や波、潮流などによる運動応答評価

- 4) 粒子法 (SPH 法) による閉鎖された水域に浮かぶ浮体式構造物の地震動に伴うスロッシング解析
- 5) ハイブリッドケーソン (HBC) 式防波堤のフォーミングに作用する圧力評価と HBC 設計法の確立
- 6) 没水平板による波高増幅効果に関する研究 など

●ゼミナールのテーマ

卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ、海洋や建築物の基礎がしっかりと身に付く学びを行えます。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- 2) PC スキル (レポート作成、プレゼンテーション、CAD によるモデリング、GIS など) を鍛えます
- 3) プログラミングを基礎から学び、研究で扱うソフトの講習を通して、簡単な構造解析プログラミングができるシミュレーション技術が身に付きます
- 4) 独自の資格対策講座も行っています

●着手条件

海洋建築物の構造や利用方法に興味があれば、着手条件は特にありません。研究室説明会に必ず出席して、個別面談 (教員や所属学生との雑談) を受けて下さい。必要な知識やスキルは研究室所属後に学びますので、履修している科目などについても特に条件はありません。大学院進学については、個別面談時に色々とお話ししましょう。相談してください。

最新情報は
こちら

Web



Instagram



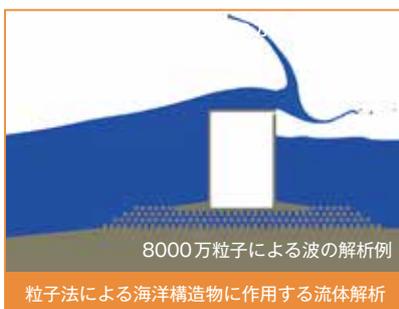
Facebook

数百本のゴム材を束ねた
弾性係留索

大型浮体を固定する弾性係留システムの設計

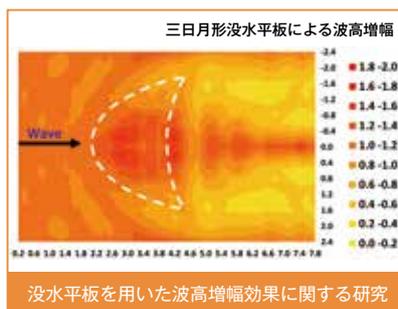
風力発電で得た電力を H₂ (水素) に変換深海を活用した
次世代水素エネルギー生産施設の提案

垂直軸型浮体式洋上風力発電施設の設計

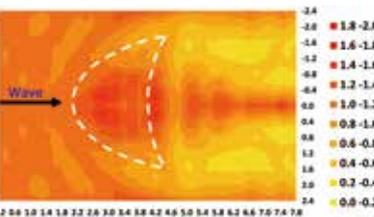


8000万粒子による波の解析例

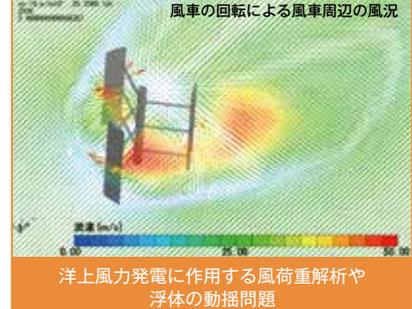
粒子法による海洋構造物に作用する流体解析



三日月形没水平板による波高増幅



没水平板を用いた波高増幅効果に関する研究



風車の回転による風車周辺の風況

洋上風力発電に作用する風荷重解析や
浮体の動揺問題

海洋物理・計算工学研究室

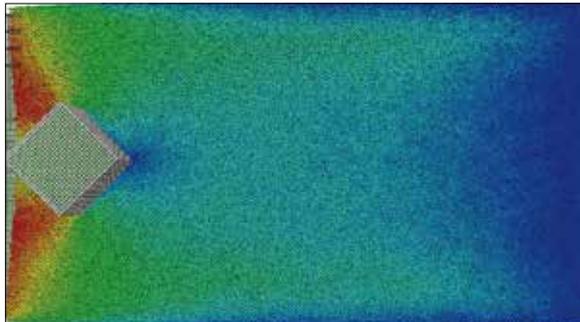
1342 室



●研究室紹介

当研究室は、波や流れが海洋建築物や海洋構造物にどのように影響を与えるかについて、数値流体力学（CFD）的手法を駆使して解き明かすことを主なテーマとした研究室です。波浪や津波によって構造物にどのような力が作用するのか、浮体構造物はどのように運動するのか、浮体構造物が建築物や構造物に衝突した際にどのような力が作用するのかなど、構造物とそれをとりまく流体をコンピューター上で再現し、実験とも比較しながら振舞いを明らかにすることに取り組んでいます。また、日本の沿岸の波浪の性質や、長期的な波高の変動予測高波の発生メカニズムや、太平洋を伝播する津波の再現、さらに発展して津波避難経路を算出し避難中の津波遭遇を再現するシミュレーターの開発など、波や流れに関することなら全てが研究テーマです。

研究室の活動は、ゼミナール、卒業研究発表会、懇親会などを予定しています。



建築物周りの津波流れ場の再現シミュレーション



日本に襲来した台風の経路ヒートマップ

研究のキーワード 数値流体力学、流体解析、浮体挙動、津波防災・減災、強非線形海洋波

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究に必要な知識の基礎を演習形式で修得します。3年生の段階で、シミュレーションの基礎を演習と講義を通じて理解し扱えるようにするとともに、水槽実験の基礎や、水波工学の基礎から応用について修得していきます。

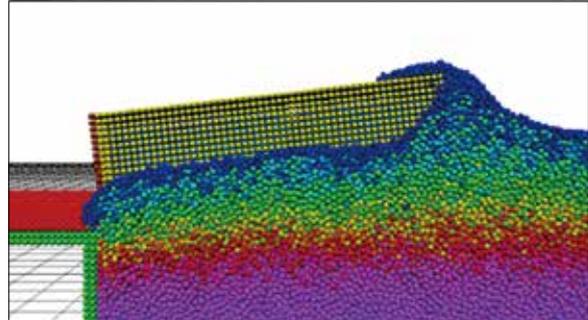
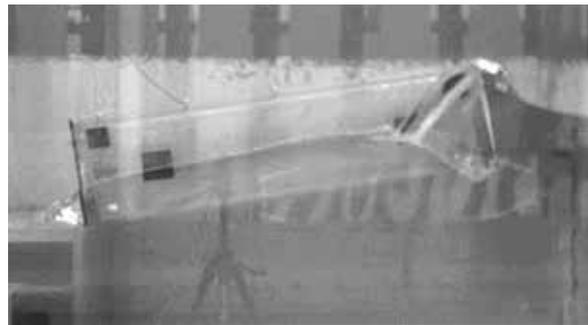
●卒業研究のテーマ

各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。また、取り組んでみたい研究テーマがあれば、相談可能です。

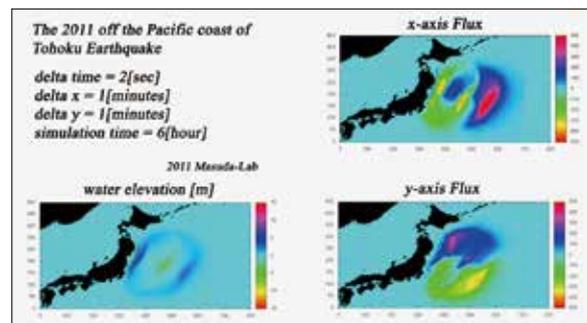
●着手条件

特に条件は設定しない。海洋の波や流れ、数値シミュレーションに興味のある学生を歓迎します。

※令和7年度はゼミナール生を募集しません。海洋物理計算工学研究室に興味のある学生は、海洋空間利用工学研究室にてゼミナールを履修し、4年次から卒業研究で海洋物理計算工学研究室に移籍してください。



浮体式構造物の乗りあがりシミュレーション



東北地方太平洋沖地震津波の再現シミュレーション

構造工学研究室

1361 室

Teaching Staff



教授
北嶋 圭二

●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造実験を数多く実施してきました(写真1)。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート(RC)造建物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術に関する研究
- 1-2 構造ヘルスマニタリングシステムに関する研究・開発
- 1-3 超高層 RC 造建物の柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究 etc

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究(写真2)
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究
- 2-4 制震構造建物の性能評価法および設計法に関する研究
- 2-5 間柱型レンズダンパーの研究・開発



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 滑り基礎構造建物の振動台実験



写真3 3Dプリンターで製作した試験体の構造実験



写真4 ゼミ公開実験の様子

2-6 構造実験における3Dプリンターの利活用方法に関する研究(写真3) etc

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究
- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に100棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します(写真4)。

●着手条件

構造に興味があり探究心旺盛で、研究に関する労力を惜しまない人を歓迎します。

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff



教授
福井 剛

●研究室紹介

< 研究のこと >

私たちの研究室は、建築分野におけるプレストレストコンクリート（PC）構造の研究の最前線を走っています。当研究室から生まれた研究成果は高く評価されており、実際の建物の設計に用いられる国や学会の設計規準に採用されています。

当研究室の看板である PC 構造は、皆さんが「建築構造及び材料Ⅱ」の講義で学んだように、①耐久性が極めて高い、②30m を超える大スパン構造を作ることができる、③優れた復元性を持ち耐震性にも優れている、など多くの利点があります。オープンキャンパスで驚いたあの跳ね返るコンクリートの板も PC 構造です。PC 構造はその優れた特性を活かし、東京スカイツリーの心柱などの飛び抜けた高性能が要求される構造体や、オリンピック競技施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。

< 研究室の雰囲気 >

研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠です。研究室では教員とゼミ生、卒研生、院生が互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。また、OB・OG が頻繁に研究室を訪問してくれるので、最前線で活躍するエンジニアの話を聞ける機会が豊富にあります。

< 年間行事 >

①顔合わせ会：4月下旬に研究室全員で親睦会。②夏合宿研究発表会：厳格なムードのなか研究成果の中間発表。発表終了後はリラックスした無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝う。④その他：めでたいことがあれば適宜開催。

●ゼミナールのテーマ

卒研をスムーズに始める準備をします。以下のテーマから2つ以上を選択。

- ①コンピュータープログラミングによる構造計算トレーニング
- ②構造力学およびコンクリート構造の勉強会
- ③コンピュータスキル（CAD、Word、Excel、PowerPoint）の修得

●卒業研究のテーマ

- 1) RC および PC 部材のせん断耐力式の提案
 - 2) 長期荷重が PC 造建物の地震後の性能に及ぼす影響の解明
 - 3) 環境配慮型コンクリート系材料を用いた PC 部材の設計法の開発
 - 4) 部分的にアンボンド加工を施した新しい PC 構造の開発
- 当研究室では、PC 構造を中心にしてコンクリート建造物の

設計法を開発しています。さらに、新材料や新構法の開発といったこれから世間をにぎわす可能性のある独創的な研究テーマにも取り組んでいます。

研究テーマに応じて、実験、解析またはその両方のアプローチで研究を進めます。テーマの名称だけで判断せず、先輩や教員の話をよく聞いてください。実際に研究を間近で見ること、大型の構造実験やプロが使うような解析のおもしろさに気付くでしょう。

●着手条件

最優先条件：ゼミに欠席しないことと卒研に没頭することを約束できること。

望ましい条件：卒研に注ぎ込む時間を十分に確保できるように取得単位数が一定以上であること。

研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために研究室訪問で院生や教員と話をしましょう。



写真1 PC梁の荷重試験

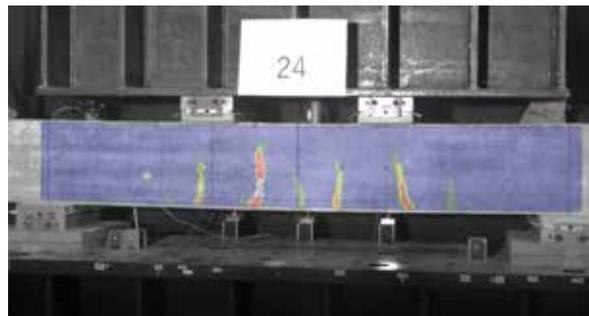


写真2 画像解析による損傷可視化



写真3 夏合宿

建築構法研究室

1346 室

Teaching Staff



教授
高橋 孝二

●研究室紹介

日本国内で震度 7 を記録した大地震（阪神淡路大震災、東日本大震災など）が、この 30 年で実に 7 回も発生しています。まさに本国は地震活動期の真っ只中にあります。また、ここ最近では地球温暖化の影響とされる想定を遥かに超えた風雨により、数多くの災害が発生しています。これら自然災害に対する防災・減災技術への貢献は、海洋建築工学科の大きな使命の一つであります。

本研究室では、「地震に強い建築」を目的に、主に耐震構造としての要求性能が高い超高層建築物や大規模な空間構造に関する研究を行っています。さらに、研究室では木質構造も取り上げています。近年、国内の森林資源の有効活用や持続可能な開発目標（SDGs）への対応として中大規模木造建築物への期待が高まっていることから、木造建築の高層化実現のための研究に取り組んでいます。

●ゼミナールの内容

3 年生で履修する「構造解析」や「振動工学」の知識をさらに深めてもらうため、平面フレームの構造解析や質点系の時刻歴応答解析の簡単なプログラミングを実施します。自分で実際

にプログラムをすることにより、理解が深まり卒論や修論の研究にも役立ちます。また、自分が取り組む卒論テーマの基礎知識を身に付けるために、専門書を読み合わせる等の学修を中心に行います。夏には、合宿にて卒研生の中間発表やゼミ生の課題発表（自分がやってみたい構造実験）を行っています。（写真 1）。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、以下のような構造に関するテーマに取り組んでいます。建築構造に関わるテーマなら学生自身で選定しても構いません。

1)鉄筋コンクリート構造

- ・部材の構造性能（写真 2）や超高層の耐震設計に関わる課題を対象
- ・超高層プレキャスト工法に関する研究（写真 3）

2)空間構造

- ・スタジアムに代表されるキャンチレバー屋根の地震時応答性状に関する研究（図 1・2）

3)木質構造

- ・多層木質純ラーメン構造の研究（図 3、写真 4）
- ・伝統木造建築の耐震性能に関する研究

4)設備機器の耐震

- ・設備機器の耐震設計に関する研究

5)杭基礎の動的挙動に関する研究（写真 5）

●着手条件

1 年生、2 年生で学んだ構造力学の授業や実験が「おもしろいな」と思った学生なら問題ありません。将来、構造に関わる仕事（構造設計や研究開発）や施工管理を目指そうと思っている学生を歓迎します。



写真 1 夏合宿



写真 2 RC 造袖壁付き柱の構造実験



写真 3 プレキャスト工法

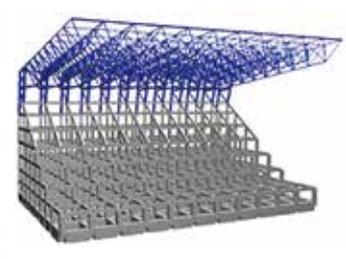


図 1 スタジアムの詳細解析モデル

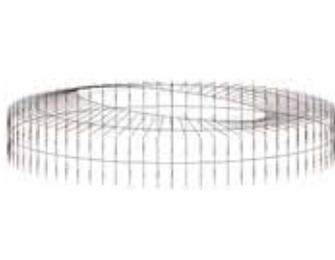


図 2 スタジアムの全体解析モデル



図 3 木造新構法の梁の実験状況



写真 4 木造新構法の梁の実験状況



写真 5 杭基礎模型の実験状況

沿岸環境防災研究室

1335 室

Teaching Staff

教授
星上 幸良

●研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際的な研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、「ゼミ研」を通じ、卒業研究や実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます
- ・プレゼン能力を鍛えます
- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます



フィールドワークの様子



沿岸域工学研究室との合同ゼミの様子

- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

●卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

【良好な環境保全を目指して：海岸侵食・環境計測】

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による海岸侵食や環境影響に関する研究
- ・ドローン等を活用した環境計測に関する研究

【安全安心な沿岸域を創造する：津波防災・高潮対策】

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知、合意形成に関する研究

●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、ゼネコンや調査会社、コンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナール・卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研 youtube
チャンネルは
こちら！



星上研 Instagram は
こちら！▶

HOSHIGAMIKEN.OFFICIAL

海洋環境情報研究室

1332A 室

Teaching Staff



准教授
吉田 毅郎

●研究室紹介

当研究室では、環境に調和した海洋利用に関する研究を行うことで、海との共存共栄を目指します。環境に配慮した海洋構造物を用いることで、持続可能な社会の実現に貢献することができます。海域利活用や沿岸域開発の際に必要な「環境」を研究のターゲットにしています。その中で、手法としては AI・データサイエンスのような最新技術も取り入れていきます。また、企業や他機関とも積極的に連携をとりながら研究を行います。

●ゼミナールのテーマ

1. 海洋構造物の環境影響

海洋再生可能エネルギー装置の環境影響に関する基礎として、海洋構造物周辺における魚類のモニタリングや付着物の解析などを行います。

2. 沿岸域の環境調査

港湾内や養殖場周辺の調査、環境改善に向けた取り組み、湾内の環境を模擬した数値シミュレーションなどを行います。

3. 海洋環境に関する AI・データサイエンスの応用

画像解析に加えて、大規模言語モデルなど生成 AI の応用も行います。その他に、時系列データの予測などもテーマとなります。

●ゼミナールのテーマ

- ・海洋環境のモニタリング手法、水中カメラや水中ドローンで得られた水中画像に対する理解と基本的な画像処理を習得します。
- ・データサイエンスに関する基礎知識や Python を用いたプログラミング、ChatGPT など生成 AI の効果的な利用法を

習得します。

- ・各自の興味に沿った研究テーマに関する動向や新しい技術を調査します。
- ・研究室での発表やディスカッションを通じて、自らの意見を伝えるためのプレゼンテーション能力および意見の違いを理解するために必要なコミュニケーション能力と柔軟性を養います。

●着手条件

環境に調和した海洋利用、水中モニタリング、AI・データサイエンスなどに興味がある学生を歓迎しますので、相談にきてください。



新任教員紹介

准教授 吉田 毅郎 (よしだ・たけろう)

専門分野：海洋環境学、知能情報学

略歴：2008年 東京大学工学部航空宇宙工学学科 卒業
2010年 東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻 修士課程 修了
2013年 東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻 博士課程 修了

職歴：2012年 日本学術振興会 特別研究員 (ー 2014年)
2014年 東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任研究員 (ー 2016年)
2016年 東京大学生産技術研究所 助教 (ー 2021年)
2021年 東京海洋大学海洋資源環境学部海洋環境科学科 准教授 (ー 2023年)

2023年 海洋研究開発機構付加価値情報創生部門地球情報科学技術センターデータサイエンス研究グループ 副主任研究員 (ー 2025年)
2025年 日本大学理工学部海洋建築工学科

これまで私は大学や研究機関で教育・研究活動に従事してきました。前職の海洋研究開発機構においては幅広く海洋分野のデータサイエンスに関連した研究開発に携わってきました。本学においても、これまでの経験を活かして教育・研究に取り組みます。特に、海洋環境分野における研究を発展させていきたいと考えています。講義や研究を通じて学生の皆さんと共に成長していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

博士論文

+

修士論文

+

卒業論文・卒業設計

佐藤研究室

修士論文

- ◆安藤大翔 ジャッキアップ式リグの再利用の提案
～インドネシアにおける防災施設としての設計
- ◆尾沢圭太 鎌倉における大仏殿の再生計画
～観光地の特徴を利用した避難施設としての提案

卒業論文

- ◆成澤隼 博物館施設の建築計画に関する研究
～中華人民共和国における2010年以降の傾向について
- ◆五十嵐功 佃島の文化再興と事前復興計画
視線の先に在るもの
- ◆石野田蘭 ～民宿の在り方と神津島のこれから
- ◆市川莉子 茶農共創の里
～茶と農業の未来を紡ぐ複合型拠点の提案
- ◆小林弘真 千葉の誇り
～ZOZOマリンスタジアムの在り方の再定義
- ◆三野宮弘太郎 葬送の開修
～海へと続く用い
- ◆姫野由衣 速度のやり直し
～浅草における交通と文化を融合する結節点の提案
- ◆横尾龍 街巡る資源
～漁業と農業を融合する循環型街の提案
- ◆若松瑠苒 船橋水景を宿す
～調節池における水辺の生業と文化を蓄積する記憶装置
- ◆園田悠太 岡崎の市町村合併による文化の発酵と発信の場の設計
- ◆古川穂奈実 イーハトーブに宿る緑の循環
～都市型農業の導入による新たな地域生産性の提案

山本研究室

卒業論文

- ◆浅川美穂 海水浴場におけるライフセーバーの現状と減少要因における研究
～千葉県におけるライフセーバーを対象として
- ◆穴井悠士郎 閉鎖された海水浴場の跡地利用に関する調査研究
- ◆池田祐規 南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における小学校の防災教育の現状と課題に関する調査研究
- ◆今井克久 新規漁業就業者増加のためのインターンシップの活用に関する調査研究
～全国の水産高校46校を対象として
- ◆神田壮一郎 地域防災力向上における自治会の役割に関する調査研究
～東京都江東5区を対象地として
- ◆塩沢隆斗 津波災害に対する登録有形文化財建造物の防災機能に関する研究
- ◆西原秀稀 沿岸域の高齢者福祉施設における外国人介護者に関する研究
～神奈川県・静岡県・愛知県の高齢者施設を対象調査として
- ◆古屋葵 能登半島地震における自主防災組織に関する調査研究
- ◆水谷海翔 沿岸地域における地産地消の推進と食育の実態に関する調査研究
- ◆宮本将来・寺崎悠登 沿岸集落における災害時の孤立化発生要因に関する調査研究
- ◆工藤和 海事展示施設における入館者数の増加要因に関する調査研究
～全国の海事展示施設57ヶ所を対象として

海洋建築・建築デザイン研究室（菅原・小林）

修士論文

- ◆梅澤秀太 島嶼建築
～瀬戸内海を対象とした離島環境と地域文化に基づいた宿泊建築の提案
- ◆大木貴裕 奈良県の観光のための分散型資料館兼宿泊施設の提案
- ◆小嶋英志朗 博物館の浸水リスクの実態と諸室配置から見た浸水対策に関する研究
～三大湾臨海部に隣接する都府県を対象として
- ◆鈴木空 未利用漁港施設活用に向けた検討事項の整理に関する研究
- ◆鈴木貴之 臨港地区内に立地する港湾施設の用途転換に向けた土地利用計画の変更過程に関する研究
- ◆高橋佑侍 災害伝承施設の持続的な運営方策に関する研究
- ◆竹内俊介 大規模水害時における避難可能施設の利用からみた域内避難の可能性に関する研究
- ◆豊田侑生 津波被災地域の住宅地再建における水辺空間の役割に関する研究
- ◆三谷翼空 築地地区まちづくり事業における異分野技術が融合するR&D施設の提案

卒業論文

- ◆堀内大晟 ねぶたの起源の再構築
～ねぶたを造る・ねぶたで築く・ねぶたが繋ぐ
- ◆伊藤ひかり 共育の住処
- ◆薄井李空 在るものたち
～芸術の異化作用を用いた都市景における建築の再構築

- ◆榎本彰 旧鎮守府における歴史的建造物の保存・活用の実態
- ◆勝野琉生 団地による移民との共生のモデルケースの設計
- ◆川崎隆也 港に開く新しいまちのかたち
～試住を通じて地域とつながる三崎港の未来
- ◆菊池康太 川越再群落化計画
～時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ
- ◆齋藤慶悟 転調する都市
～慢性化した垂直的再開発を水平的へ再解釈する
- ◆島垣麟太郎 重要文化的景観選定地における水資源の保全に関わる地域連携の実態
- ◆鈴木稔一 北海道奥尻町青苗地区における地域住民の住環境評価に関する研究
- ◆鈴木陸 東京都隅田川における恒常的な賑わい創出に向けた仕組みづくりに関する研究
- ◆相馬咲良 仮想評価法による親水公園の住民評価と維持管理方策の検討
～東京都江戸川区を対象として
- ◆高井和真 静岡県三島市の湧水河川による微気象形成効果の検証
- ◆高田悠真 東京都臨海部に立地する共同住宅を対象とした交通舟運の導入可能性の検討
- ◆田中修斗 江戸川区の海拔ゼロメートル地帯における避難施設の在り方
- ◆床枝紀香 江東5区の小・中学校における水害に関する防災教育の推進方策の検討
- ◆根本祐輔 ショッピングセンターの津波避難ビルの指定実態とその有用性に関する研究
～南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として
- ◆藤崎知輝 水辺のサードプレイス
～都市回遊拠点の提案と美術館・植物園の融合
- ◆古川碧人 木造都市
～生命としての都市、都市としての木
- ◆森田健太郎 港湾における鉄道廃線跡の土地利用の転換実態及び活用ポテンシャルの検討
- ◆小野田鼓 AI（愛）される水端
～Woven Cityの新たな入り口となる複合施設の提案
- ◆齋藤光 15.5
～記憶を紡ぎつくる未来
- ◆吉水理乃 人々のもたせ
～掘削の機能を踏襲した滞在型複合施設の提案
- ◆小松達 廃墟が混在する街

ウォーターフロント都市工学研究室（寺口・桜井）

修士論文

- ◆阿部拓真 津波避難を阻害する鉄道線路の横断方策に関する研究
～全国の沿岸路線を対象として

卒業論文

- ◆井田帆南 海辺に立地するリノベーション施設の特性に関する研究
～瀬戸内海の内海に立地する施設を対象としたアンケート調査
- ◆江口楓 ライフジャケットの利用促進に関する研究
～ライフジャケットの着用者、製造会社を対象とした調査
- ◆草野真司 水上バイク利用に関する条例およびローカルルールに関する研究
～全国の湖沼および海水浴場を対象とした調査
- ◆芦ヶ原治希 放置艇対策としてのマリナ等以外施設の現状と課題に関する研究
～中国・四国地方を対象とした調査
- ◆秋吉佳乃子 水辺に立地する建築物と水面との関わりに関する研究
～東京都の運河・河川を対象とした調査
- ◆丸山愛未 沿岸市町村における人口変動と自治体の取り組みに関する研究

居駒研究室

博士論文

- ◆福永勇太 可変ピッチ垂直軸型風車を搭載した一点係留浮体の振り回り運動性能の推定法に関する研究

修士論文

- ◆鈴木健斗 ムーンブルを有するバージ型浮体の運動に与える非線形波力の影響に関する基礎的研究
- ◆堤龍也 浮体式洋上風力発電システムの前進速度が曳引力特性に与える影響に関する基礎的研究
- ◆中澤澤生 ムーンブル付バージ型浮体で構成される連結浮体の波浪中挙動に関する研究
- ◆福永佳晏 高周速比の回転円柱に作用する流体力と周辺の流場特性に関する基礎的研究
- ◆宮武竜希 浮体式PW-OWC型波力発電装置の一次変換及び定常波漂流力の特性に関する基礎的研究

博士論文 + **修士論文** + **卒業論文・卒業設計**

卒業論文

- ◆小櫃蓮華 浮体式 PW-OWC 型波力発電装置の運動及び一次変換特性に関する実験的研究
- ◆貝澤柊平 ムーンプールを有するボンツーン型浮体の斜波中における波浪外力特性に関する実験的研究
- ◆加藤奏 周速比とソリディティがエンドプレートに有する垂直軸型水車に作用する流体力に与える影響に関する実験的研究
- ◆小出優有 可変ピッチ垂直軸型ツインタービンのパワー・スラスト特性に関する基礎的研究
- ◆朱泊セン 浮体の曳航状態の流速場の FLOW-3D による再現に関する基礎研究
- ◆戸部暉 クレーン船を使用した洋上風車基礎杭設置作業における気中の基礎杭の挙動に関する基礎的研究
- ◆永田友哉 可変ピッチ機構を有する二基の垂直軸風車を搭載した一点係留浮体の回頭運動に関する実験的研究

惠藤研究室

卒業論文

- ◆野呂明日美・赤木大晟 海底水深変化に対応した弾性係留システムの諸元選定に関する検討
- ◆伊藤泰子・古川智尋 没水平板を用いた規則波の集束効果に関する研究
- ◆川名響・小島優希 不規則波浪場におけるハイブリッドケーソン式防波堤の SPH 法による波圧特性
- ◆神田匠・根岸拓末 ブイ・クランプウエイトを用いたチェーンカテナリー係留の浅海域における係留特性
- ◆今悠紀 ジャケット式栈橋下の圧縮空気と波による揚圧力の気液連成解析
- ◆坂本彩乃・周嘉祥 閉鎖水域のスロッシングに起因する浮体式構造物の運動応答
- ◆佐藤匠・藤澤佐翔 交差軸型風車の風荷重と起動特性に関する研究
- ◆望月優名・丸尾中央 SPH 法を用いた大型平板式潜堤による津波遡上低減効果に関する研究

相田研究室

修士論文

- ◆遊谷祐輔 日本沿岸の波高の増大を考慮した年最大有義波高推定方法への機械学習の適用に関する研究

卒業論文

- ◆奥山颯太 巨大地震発生後の道路状況を考慮した津波の避難困難地域の抽出と避難準備時間に関する基礎的研究
- ◆井上祥太郎 AIS データを用いた港湾統計の速報値を算出する手法に関する基礎的研究
- ◆舟塚誠樹 性能の異なる計算ノードを組み合わせたコンピュータークラスターによる粒子法の並列化手法に関する基礎的研究

北嶋研究室

博士論文

- ◆上田英明 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震補強に用いるリング機構式摩擦ダンパーに関する研究

修士論文

- ◆江口琢菜 中高層 RC 造集合住宅を対象とした損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究
- ◆関祥汰 中鋼管降伏タイプの折返しブレースの構造特性に関する研究
- ◆寺岡大輝 間柱型ダンパーを用いた制震構造設計法に関する研究

卒業論文

- ◆伊藤碧斗・野尻辰之輔 長大化した中鋼管降伏タイプの折返しブレースの構造特性に関する研究
- ◆上原皐暉・江藤光毅・戸丸広翔 津波漂流物を想定した衝突荷重に関する実験的研究～気中衝突実験における衝突荷重の評価
- ◆唐澤侑太 次世代制震構造システムを用いた木造多層建物の有効性に関する研究～連層耐震壁脚部の回転摩擦ダンパーの実験的研究
- ◆小出裕輝乃・中館良太 マルチティンブルを有する滑り基礎構造建物の 2 方向振動台実験
- ◆坂巻武彦・峯野準也 南極昭和基地第 19 次地学棟木質パネルの曲げ強度に関する実験的研究
- ◆佐藤みのり 次世代制震構造システムを用いた木造多層建物に関する研究～柱・梁を圧着接合した架構特性に関する実験
- ◆佐藤萌 鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価に関する研究～残留ひび割れ幅に基づく損傷評価
- ◆塩見義弘 間柱型ダンパーを用いた制震構造設計法に関する研究～5 層鋼構造建物の制震構造設計法スタディー

福井・柴山研究室

博士論文

- ◆小池正大 アンボンドプレキャスト PC 部材の耐力と応力状態に関する研究

卒業論文

- ◆浅野波咲・江崎友星 曲げせん断を受ける RC 部材のコンクリート応力
- ◆阿部翔一郎・海野開斗・下地風太 環境配慮型コンクリートを用いた PC 梁の曲げ性状に関する実験的研究
- ◆伊藤朝日・木村理玖・佐藤智也・引田翔太 部分アンボンド PCaPC 梁の地震時挙動に関する実験的研究
- ◆遠藤拓斗・小西悠斗・真島良弥・木幡ヒカル RC 部材のせん断伝達機構に関する実験的研究
- ◆大成勇太・小野崎悠輝・駿河翔太・清水祐吾 機械学習を用いた RC～PC 部材の統一的なせん断耐力評価プログラムの開発

高橋研究室

修士論文

- ◆宇賀神将 下部構造の水平振動を考慮した片持ち屋根の地震応答に関する研究～推定式の精度向上と大規模スタジアムへの適用性
- ◆王珂 壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の力学性状に関する研究
- ◆友枝一馬 簡易モデルによるスタジアム屋根の耐震設計法に関する研究
- ◆内藤隼汰 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの構造性能に関する実験的研究～梁端接合部に関する検討

卒業論文

- ◆東亮佑 自己釣り合い構造による木質大スパン屋根の構造特性に関する解析的研究
- ◆姉崎剛大・石井勇我 壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の部分架構実験に関する研究
- ◆阿部優作・伊原黎 多層木質純ラーメン構造に用いる靱性型 GIR 接合の構造性能に関する実験的研究
- ◆飯ヶ浜椋 建物最上階に設置される設備機器に取り付く配管の地震時挙動に関する解析的研究
- ◆小川達海 下部構造の水平振動を考慮した片持ち屋根の地震応答に関する研究～回転剛性と片持ち屋根の張り出し長さが推定式に与える影響について
- ◆小野弘人・小林真大 建物・杭基礎・地盤連成系の模型振動台実験
- ◆小牟田将吾 建物最上階に設置される設備機器の耐震性能に関する解析的研究～高置水槽に関する詳細検討
- ◆佐久間花菜 CLT 耐震壁付き鉄骨造建物の設計法に関する研究～解析モデルの違いが剛性と応力分布に及ぼす影響
- ◆杉田茜 簡易モデルによるスタジアム屋根の耐震設計法に関する研究～水平地震動による検討
- ◆田村亮祐 懸造が上部構造の地震時応答に及ぼす影響に関する解析的研究
- ◆吉田翔汰 CLT 耐震壁付き鉄骨造建物の設計法に関する研究～剛性・耐力調節方法の解析検討
- ◆長井晴彦 木造と鉄筋コンクリート造による平面混構造建物の構造特性に関する解析的研究

星上研究室

修士論文

- ◆生田目瑠偉 砂嘴の発達による潟湖形成過程の解明に関する研究～猪苗代湖を例として

卒業論文

- ◆大竹克典 ドローン搭載型レーザー扫描仪を用いた崖海岸の地層判別に関する基礎的研究
- ◆山根湧輝・冨田睦生 津波災害時の避難場所のリスク評価に関する研究
- ◆楊昊函 河川流入と海岸のマイクロプラスチック分布に関する研究
- ◆内野史悠・金子創汰 複合災害を考慮した避難時のリスク可視化に関する研究
- ◆小河原玲音 東京湾奥部でのブルーカーボンに関する基礎的研究
- ◆柏原武琉・守翔飛 レジリエンスエンジニアリングを活用した大学生の防災力に関する研究
- ◆上村爽空 洪水浸水時の避難所の長期孤立化に関する研究～東京都江戸川区を対象として
- ◆中村皓・松澤拓人 防潮堤計画時の環境影響評価に関する研究
- ◆増田遥 沿岸漂砂と岸向き漂砂の同時作用による中津三百間砂州の実態分析

佐藤研究室

審査付論文

- ◆Shinji Sato and Ryota Seki: PROPOSAL FOR BUILDING AN INTERNATIONAL HYDROGEN SUPPLY NETWORK. The International Conference on GEOMATE 14th, Pattaya, Thailand, 13-15 November 2024, The Conference Proceedings GEOMATE International Society 2024, pp.636-641,

口頭発表・ポスター発表

- ◆富永玲央、佐藤信治：鉄の起水とアグリズム 水素製鉄による排水を用いた新たな製鉄所の在り方、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.22-23, 2024.8
- ◆仲澤和希、佐藤信治：～ TSUSHIMA symbiosis project ～ 海洋プラごみの再生と観光拠点の共生の場、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.130-131, 2024.8
- ◆荒木陽哉、佐藤信治：熊蟄穴、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.134-135, 2024.8
- ◆熊本一希、佐藤信治：享穂の礎、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.202-203, 2024.8
- ◆山口直也、佐藤信治：e スポーツ複合施設巻、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.300-301, 2024.8
- ◆佐村拓郎、佐藤信治：天狗の怒り、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.360-361, 2024.8
- ◆樋口大雅、佐藤信治：海上円環都市、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.396-397, 2024.8
- ◆浅井駿来、佐藤信治：絶海の未来航路、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.400-401, 2024.8
- ◆鈴木暖、佐藤信治：町のたため方、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.468-469, 2024.8
- ◆安藤大翔、佐藤信治：石油掘削リグを用いた防災都市計画、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.470-471, 2024.8
- ◆奥村碩人、佐藤信治：習志野 歴史資料館、2024 [建築デザイン] [学術講演梗概集] pp.510-511, 2024.8
- ◆尾沢圭太、佐藤信治：鎌倉における大仏殿の再生計画ー観光地の特徴を利用した避難施設を併設した提案ー、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.477-478, 2024.12
- ◆佐藤信治、樋口大雅：海水の蒸留を利用した東京湾における水循環都市の提案、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.479-480, 2024.12
- ◆佐藤信治、法橋礼歩：フィンランドにおける木造建築の実践、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.481-482, 2024.12
- ◆佐藤信治、安藤大翔：ジャッキアップ式リグ再利用の提案ーインドネシアにおける防災施設としての設計ー、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.483-484, 2024.12
- ◆佐藤信治、奥村碩人：習志野の軍事の歴史を伝える資料館の提案その2、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.513-514, 2024.12
- ◆佐藤信治、熊本一希：享穂の礎その2、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.515-516, 2024.12
- ◆浅井駿来、佐藤信治：宇宙輸送技術を活用した宇宙港の提案、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.517-518, 2024.12
- ◆山口直也、佐藤信治：スポーツ複合施設の提案、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.519-520, 2024.12
- ◆佐藤信治、荒木陽哉：熊蟄穴 その2、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.521-522, 2024.12
- ◆富永玲央、佐藤信治：水素製鉄による排水を用いた産業再編計画、

第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.523-524, 2024.12

- ◆鈴木暖、佐藤信治：単身世帯に合わせた減築方法、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.525-526, 2024.12
- ◆佐藤信治、若松瑠芽：船橋の歴史と地形から再考する河川との共生、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.527-528, 2024.12
- ◆佐藤信治、小林弘真：ZOZO マリンスタジアムのリノベーション、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.529-530, 2024.12
- ◆石野田蘭、佐藤信治：神津島における島のポテンシャルを活かした観光事業の提案、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.531-532, 2024.12
- ◆佐藤信治、古川穂奈実：材木町“よ市”の再計画、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.533-534, 2024.12
- ◆佐藤信治、姫野由衣：東武浅草駅における駅複合型施設の提案、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.535-536, 2024.12
- ◆佐藤信治、園田悠太：岡崎の市町村合併による文化の発酵と発信の場の設計、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.537-538, 2024.12
- ◆佐藤信治、横尾龍：漁業と農業を融合した次世代システム、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.539-540, 2024.12
- ◆佐藤信治、市川莉子：産業×建築、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.541-542, 2024.12
- ◆佐藤信治、五十嵐功：海拔0メートル地帯および木造住宅密集地域における災害に対する事前復興計画、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.543-544, 2024.12
- ◆佐藤信治、李政潤、李抒音：「美しい村」戦略に基づく村公園の景観設計 始祖山村文化公園を例として、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.545-546, 2024.12
- ◆仲澤和希、佐藤信治：海洋プラごみの再生と観光拠点の共生の場、第68回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.547-548, 2024.12

著書・執筆等

- ◆編者：海洋建築デザイン教材研究会 著者：佐藤信治、他5名と共著、新訂増補第3版 空間デザインを学ぶ、(株)DTP出版、2024.9.14

作品等

- ◆佐藤信治、筒井紀博空間工房：横浜市山下埠頭及びN地区計画デザインアンドデベロップメント2024

所属学生の受賞等2024

- ◆富永玲央：Dsign Review 2024・全国合同卒業設計展 卒、24「鉄の起水とアグリズム -水素製鉄による排水を用いた新たな製鉄所の在り方-」10選ファイナリスト (DR2024)
- ◆太田優人：「防災に対応した庁舎の提案 - 江戸川区における木密地域不燃化に伴う新庁舎の設計 -」日本建築学会大会 [関東] 関連行事「第47回 学生設計優秀作品展」出品作品 20240826 ~ 29
- ◆奥村碩人、熊本一希、荒木陽哉、山口直也：日本建築学会主催建築設計競技2024「 commonsの再構築」、関東支部入選、20240610
- ◆奥村碩人：木の家設計グランプリ、2024「住み続けられる家-古き良きものの再生-」、優秀賞、20241019
- ◆若松瑠芽：木の家設計グランプリ、2024「住み続けられる家-古き

教員研究業績 研究室活動業績

良きものの再生 -』、ビルダー賞、20241019

- ◆酒井優：2024 建築学縁祭 - Rookie 選 -、猪熊純賞、20240902
- ◆酒井優：第 24 回住宅課題賞 2024 建築系大学住宅課題優秀作品展、入選、20241102
- ◆安藤大翔、樋口大雅、仲澤和希、五十嵐勇、酒井優、星野輝太：土木デザイン設計競技景観開花「Regional Transport Hub」、佳作、20241201
- ◆浅井翔、鈴木暖、小林弘真、三野宮弘太郎、牧野元汰、田永愛夏：土木デザイン設計競技景観開花「Regional Transport Hub」：ドーコン賞、20241201
- ◆富永玲央、若松溜芽：第 12 回ヒューリック学生アイデアコンペ「未来のGINZA ライフ」佳作、20241124
- ◆学術講演会優秀発表賞 口頭：安藤大翔
学術講演会優秀発表賞 ポスター：若松溜芽

学外活動（講演・講義等）

- ◆佐藤信治：登録文化財の活用を考える 2、主催：秋田県登録有形文化財所有者の会、強首温泉樞峰苑大広間、秋田県大仙市、2024.07.20
- ◆佐藤信治：第 1 回 千葉県内の景観を考える見学会 主催：(一社)千葉県建築士会 景観整備機構、主催一般社団法人千葉県建築士会、千葉県千葉市、一般社団法人千葉県建築士会大会議室、2024.03.10
- ◆佐藤信治：千葉県における登録文化財の現状、主催一般社団法人千葉県建築士会、千葉県千葉市、千葉市民ギャラリー、2024.03.23
- ◆佐藤信治：千葉県登録有形文化財について 第 4 回設立準備会 in 飯沼本家 主催一般社団法人千葉県建築士会、「きのえねまがり家」千葉県印旛郡酒々井町、2024.03.23
- ◆佐藤信治：(仮称)千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会 設立記念講演 主催千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会、千葉県千葉市、2024.11.04
- ◆佐藤信治：海洋建築の構図 - 人類はいかにして海洋建築を受け入れるのか - 2024.03.05 改訂、主催：桜門建築会_海洋建築研究懇談会、

千葉県船橋市、2024.03.05

- ◆佐藤信治：Urban Plan Institute Workshop 2024 Volunteer Training #1 実行委員、主催：Urban Plan Institute Japan, Waseda University Nishi-Waseda Campus, 2024.06.01
- ◆佐藤信治：Urban Plan Institute Workshop 2024 Spring 実行委員、主催：Urban Plan Institute Japan, Waseda University Nishi-Waseda Campus, 2024.06.22
- ◆佐藤信治：Urban Plan Institute Workshop 2024 Winter 実行委員、主催：Urban Plan Institute Japan, Nihon University Ochanomizu Campus, 2024.12.07

学外活動（委員会活動等）

- ◆(財)日本建築学会 第 24 期代議員
- ◆(財)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆(財)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(財)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(財)東建建築士会
- ◆(財)千葉県建築士会 景観整備機構
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会 委員
- ◆秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆秋田産業サポータークラブ 地域連携観光ワーキング 主査
- ◆秋田産業サポータークラブ 秋田杉活用ワーキング 主査
- ◆(財)海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆秋田県能代市 産業振興アドバイザー
- ◆秋田県 登録文化財所有者の会 幹事
- ◆(仮称)千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会 設立準備委員会委員
- ◆(仮称)千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会 監事
- ◆Urban Plan Institute Workshop Committee Members

山本研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆寺崎悠登、宮本将来、山本和清：能登半島の沿岸集落における災害時の孤立化リスクに関する調査研究 - 能登半島 3 市を対象とした孤立化発生要因の抽出 -、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.485-486, 2024.12
- ◆今井克久、山本和清：新規漁業就業者増加のためのインターンシップの活用に関する調査研究 - 全国の水産高校 46 校を対象として -、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.563-564, 2024.12
- ◆水谷海翔、山本和清：沿岸地域における地産地消の推進と食育の実態に関する調査研究、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.565-566, 2024.12
- ◆西原秀稀、山本和清：沿岸域の高齢者福祉施設における外国人介護者に関する研究 - 愛知県・静岡県・神奈川県の高齢者施設を対象調査として -、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.567-568, 2024.12

学外活動（委員会活動等）

- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆(一社)日本建築学会 第 25 期代議員
- ◆(一社)日本建築学会・海洋建築委員会 津波避難シェルター小委員会委員
- ◆(一社)日本建築学会大会(関東)・海洋建築委員会 研究協議会 討論モデレーター
- ◆千葉県館山市・たてやま海まちフェスタ 2022 実行委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆日本大学校門建築会・広報委員会 委員
- ◆日本大学理工学部校友会・海洋建築部会 常任幹事
- ◆日本大学理工学部校友会・財務委員会 委員

長谷川研究室

著書・執筆等

- ◆長谷川洋平：歴史のなかの大空間建築（論考執筆）、建築雑誌、2024.10

作品等

- ◆長谷川洋平、長谷川大輔／長谷川大輔構造計画：志摩グリーンアドベンチャーシップラインデッキ、2024.6

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆長谷川洋平、長谷川大輔／長谷川大輔構造計画：長崎スタジアムシティジップラインデッキ、2024.7

所属学生の受賞等

- ◆増淵慈：100選、透族館、第4回建築学縁祭～ Rookie選～、2024.8
- ◆藤井光稀：100選、みずたまり、第4回建築学縁祭～ Rookie選～、2024.8
- ◆宮田正博：佳作、解体と再生、第4回建築学縁祭～ Rookie選～、2024.9

- ◆田村萌依：100選、無限の入れ子、建築新人戦 2024、2024.9
- ◆糸魚川颯大、池田拓未：審査員特別賞、道端商店街、丹青社空間アワード 2024、2024.12

学外活動（講演・講義等）

- ◆長谷川洋平：大空間建築における設計論－建築家のアナロジー表現－、桜門建築会海洋建築系研究懇談会、2024.6

江川研究室

審査付論文

- ◆江川香奈、木村敦、吉田雪乃、岩城和哉：学生が興味深く取り組むことを目的とした初年度履修の設計演習課題の実践と評価、建築教育研究論文報告集 No.24、pp.21-25、2024.11
- ◆江川香奈、曽根里子、木村敦：集合住宅の高齢者の使われ方を考慮した共用施設のインテリア・建築設計に関する調査研究、日本インテリア学会論文報告集 35号、pp.15-21、2025.3
- ◆江川香奈、木村敦：オフィスワーカーの職務の意欲向上とコミュニケーションの促進につながるインテリアデザインに関する調査研究、日本インテリア学会論文報告集 35号、pp.23-29、2025.3

口頭発表・ポスター発表

- ◆江川香奈：救急部門における諸室の専用使用に関する要望に関する基礎的調査研究、第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2024.7
- ◆高谷真実、大内田史郎、江川香奈、佐々木暁生：国鉄の病院建築の変遷に関する研究（その2）JR東京総合病院現病棟の超高層建築に至る経緯について、日本建築学会大会学術講演 梗概集（関東）、pp.515-516、2024.8
- ◆江川香奈、依田育士：近年建設された災害拠点病院の外來部周辺を主対象とした設計内容に関する考察、日本建築学会大会学術講演 梗概集（関東）、pp.131-132、2024.8
- ◆Kana Egawa：Survey report on the design of facilities and buildings in consideration of disasters at disaster base hospitals constructed in recent years, IFHE International Conference 2024、2024.10
- ◆Kana Egawa：Research on park design methods that enable the establishment of emergency medical aid stations immediately after large scale disaster, APCDM2024、2024.11
- ◆江川香奈、岩井一幸、大崎淳史、奥田宗幸、金子裕行、川島平七郎、河村容治、長山洋子：インテリア・建築分野の資格の製図試験テキスト等における記載内容の比較、日本インテリア学会 第36回大会、pp.47-48、2024.11
- ◆小嶋英志朗、菅原遼、江川香奈：博物館の諸室配置からみた浸水リスクの実態に関する研究－三大湾臨海部に隣接する都府県を対象として、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、pp.437-438、2024.11
- ◆高橋佑侍、菅原遼、江川香奈：災害伝承施設の維持管理・運営の実態に関する研究、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、pp.443-444、2024.11
- ◆豊田侑生、菅原遼、江川香奈：宮城県内の住宅地再建事例にみる居住環境評価の変化に関する研究－現地再建事業と移転事業との比較、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、pp.314-315、2024.11
- ◆江川香奈：災害拠点病院の傷病者受け入れ時に使用する諸室と使用さ

れる可能性のある諸室に関する調査研究、第30回日本災害医学会総会・学術集会 記念大会、2025.3

- ◆江川香奈：北海道南西沖地震の医療救護活動からみた傷病者受け入れに関する考察、日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会 第31回海洋工学シンポジウム、掲載確定、2025.3
- ◆豊田侑生、菅原遼、江川香奈：津波被災地域の住宅地再建における水辺空間の役割に関する研究－名取市閑上地区と石巻市のぞみ野地区を対象として－、日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会 第31回海洋工学シンポジウム、掲載確定、2025.3

著書・執筆等

- ◆江川香奈：医療福祉用語の基礎知識、医療福祉建築 No.223、日本医療福祉建築協会、2024.4
- ◆江川香奈：傷病者受け入れという視点からみた病院建築の将来、医療福祉建築 No.226、日本医療福祉建築協会、pp.32、2025.1

所属学生の受賞等

- ◆藤崎知輝、玉川将太、横山晃己、池田拓未：学生未来賞、Next 東静岡～創る・継げる・結わえる街へ～、まちづくりアイデアコンペ in 東静岡、静岡市、2024.12
- ◆糸魚川颯大、池田拓未：審査員特別賞、道端商店街、丹青社空間アワード 2024、丹青社、2024.12

学外活動（講演・講義等）

- ◆江川香奈：災害対応に配慮した医療施設のデザイン・第1回海洋建築系研究懇談会・桜門建築会主催、2024.6.3
- ◆江川香奈：医療福祉施設のインテリアデザイン、文化学園大学、出張講義、2024.7.（出張講義）

学外活動（委員会活動等）

- ◆（一社）埼玉建築設計監理協会主催 第23回卒業設計コンクール特別審査員
- ◆日本建築学会 協力委員会 委員
- ◆日本医療福祉建築協会 情報委員会 委員
- ◆日本インテリア学会 理事
- ◆日本インテリア学会 評議員
- ◆日本インテリア学会 総務委員会 委員
- ◆日本インテリア学会 関東支部 幹事
- ◆日本インテリア学会 教育部会 委員
- ◆印西市防災会議 委員

研究助成・受託研究

- ◆江川香奈：科学研究費・基盤研究（C）、日常・非常事象内及び事象間における伸縮性を有する病院の建築計画に関する研究

海洋建築・建築デザイン研究室（菅原・小林）

審査付論文

- ◆石原汐莉、菅原遼：南海トラフ地震による沿岸部の神社の津波被災リスクの実態と再建時の検討事項、沿岸域学会誌 Vol.37 No.3, pp.37-43, 2024.12
- ◆菅原遼、杉山洋太：全国の造船所及び造船所跡地の立地状況と跡地利用の傾向に関する研究、土木学会論文集 80 巻 8 号、ID : 23-00290、2024.8
- ◆小嶋英志朗、菅原遼：東京都 23 区に立地する文化施設の空間構成からみた浸水リスクと浸水対策の実態に関する研究、日本建築学会計画系論文集 89 巻 821 号、pp.1267-1274、2024.7

口頭発表・ポスター発表

【意匠系】

- ◆梅澤秀太、長谷川洋平：海を紡ぐ方舟 - 瀬戸内海における分散型舟宿泊施設の提案 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-22、pp.505-506、2024.12
- ◆大木貴裕、長谷川洋平：奈良県の発展のための分散型資料館兼宿泊施設の提案、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-23、pp.507-508、2024.12
- ◆三谷翼空、長谷川洋平：築地市場跡地再開発事例事業 - スタジアム機能を有し、異分野技術が融合する研究施設の提案 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-24、pp.509-510、2024.12
- ◆金指遙、長谷川洋平、菅原遼：バイオミメティクス建築を現実にも導くための調査とその提案 - 中銀カプセルタワービルと他の事例傾向に基づく必要条件の設定 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-25、pp.511-512、2024.12

【計画系】

- ◆星上幸良、高橋孝二、菅原遼：複合災害としての津波被害、第 31 回海洋工学シンポジウム、OES31-A0025、2025.3
- ◆豊田侑生、菅原遼、江川香奈：津波被災地域の住宅地再建における水辺空間の役割に関する研究 - 名取市閑上地区と石巻市のぞみ野地区を対象として -、第 31 回海洋工学シンポジウム、OES31-A0036、2025.3
- ◆鈴木稯一、豊田侑生、菅原遼：北海道奥尻町青苗地区における地域住民の住環境評価に関する研究、第 31 回海洋工学シンポジウム、OES31-A0041、2025.3
- ◆高橋孝二、星上幸良、菅原遼：令和 6 年能登半島地震の地震動による建築物の被害状況、第 31 回海洋工学シンポジウム、OES31-A0052、2025.3
- ◆床枝紀香、竹内俊介、菅原遼：江東 5 区の小・中学校における水害に関する防災教育の実施状況と課題、2024 年度環境情報科学ポスターセッション、No.39、2024.12
- ◆鈴木貴之、菅原遼、大森文彦、星上幸良：港湾地域の土地利用計画の変更に関する実態分析、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 F1-4、pp.212-213、2024.12
- ◆鈴木空、菅原遼、星上幸良：全国の海業事例に見る漁港施設の活用時の検討事項、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 F2-6、pp.274-275、2024.12
- ◆豊田侑生、菅原遼、江川香奈：宮城県 of 住宅地再建事例にみる居住環境評価の変化に関する研究 - 現地再建事業と移転事業との比較 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 F2-26、pp.314-315、2024.12
- ◆小嶋英志朗、菅原遼、江川香奈：博物館の諸室配置からみた浸水リスクの実態に関する研究 - 三大湾臨海部に隣接する都府県を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 I-19、pp.437-438、2024.12
- ◆高橋佑侍、菅原遼、江川香奈：災害伝承施設の維持管理・運営の実態に関する研究、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 I-22、

pp.443-444、2024.12

- ◆榎本彰、鈴木空、菅原遼：鎮守府地域における歴史的建造物の保存・公開の実態 - 京都府舞鶴市を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-7、pp.475-476、2024.12
- ◆竹内俊介、菅原遼、星上幸良：大規模水害時の収容能力からみた域内避難の検討 - 避難可能施設への避難を想定して -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-21、pp.503-504、2024.12
- ◆根本祐輔、小嶋英志朗、菅原遼：ショッピングセンターの津波避難ビルへの指定実態とその有用性に関する研究 - 南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-44、pp.549-550、2024.12
- ◆森田健太郎、鈴木貴之、菅原遼：港湾地域における鉄道廃線跡の活用実態 - 東日本に立地する港湾を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-45、pp.551-552、2024.12
- ◆島垣麟太郎、小沼桜子、菅原遼：湧水地域における水利施設の地域共同管理の実態 - 滋賀県高島市大溝地区を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-46、pp.553-554、2024.12
- ◆高田悠真、高橋佑侍、菅原遼：東京都臨海部における交通舟運の導入可能性の検討 - 臨海部に立地する共同住宅に着目して -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-47、pp.555-556、2024.12
- ◆相馬咲良、豊田侑生、菅原遼：江戸川区における親水公園の経済的価値に関する研究 - 小松川境川親水公園を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-48、pp.557-558、2024.12
- ◆高井和真・今市尚大・菅原遼：湧水河川による周辺市街地への微気象形成効果の傾向 - 静岡県三島市・源兵衛川を対象として -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-49、pp.559-560、2024.12
- ◆鈴木陸、川名神威、菅原遼：東京都隅田川におけるイベント開催の動向と開催時の検討事項、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-50、pp.561-562、2024.12
- ◆菅原遼、杉山洋太、竹内俊介：浦賀地域における造船所の形成過程とドライドックの保存・活用の動向、都市計画報告集 No.23、pp.405-410、2024.12
- ◆今市尚大、小嶋英志朗、鈴木貴之、高橋佑侍、竹内俊介、川名神威、菅原遼：水辺のカウンターバー「mizube bar」の設置による来訪者の滞在実態 - 東京都品川区天王洲アイルでの実証実験を通して -、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）都市計画、pp.749-750、2024.8
- ◆増田光弘、吉田郁夫、菅原遼：水上空間利用とフローティング建築の歴史の変遷、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）海洋建築、pp.49-52、2024.8
- ◆吉田郁夫、菅原遼、増田光弘：日本国内におけるフローティング建築の関連法制度適用の系譜、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）海洋建築、pp.53-56、2024.8
- ◆菅原遼、吉田郁夫、増田光弘：都心部で建設されたフローティング建築の建設経緯及び関連法制度 - 東京都・横浜市・大阪市に着目して -、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）海洋建築、pp.57-60、2024.8
- ◆森田健太郎、鈴木空、菅原遼：港湾地域における鉄道廃線跡の用途転換の実態 - 東日本におけるみなとオアシス登録港を対象として -、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）海洋建築、pp.89-90、2024.8
- ◆高柳祐里、菅原遼：全国の競艇場水面の利用経緯と活用可能性の検討、2024 年度日本沿岸域学会研究討論会、講演番号 No.5-3、2024.7
- ◆竹内俊介、菅原遼、星上幸良：大規模水害時の避難リスクに関する研究 - 江東 5 区の避難所収容能力の実態 -、2024 年度日本沿岸域学会研究討論会、講演番号 No.10-1、2024.7
- ◆川名神威、菅原遼：親水と浸水の両義的側面からみる河川空間利用の動向 - 河川空間のオープン化事例を対象として -、第 69 回土木計画学発表会・春大会、2024.5

教員研究業績 研究室活動業績

作品等

- ◆菅原遼：mizube bar、COFFEE COFFEE FES Vol.3 隅田川テラス 越中島、2025.3
- ◆菅原遼：mizube bar、COFFEE COFFEE FES Autumn in 2024、2024.11
- ◆菅原遼：mizube bar、黄金町パンとコーヒーマルシェ、2024.11
- ◆菅原遼：mizube bar、すみだがわオープンテラス 2024 with 宮前公園・あらかわ遊園、2024.10
- ◆菅原遼：mizube bar、隅田川マルシェ@越中島、2024.5

受賞等

- ◆菅原遼：情報基礎、理工学部教育貢献賞-Teaching Awards-、2024.12

所属学生の受賞等

【意匠系】

- ◆藤崎知輝：学生未来賞、Next 東静岡 ～創る・継げる・結わえる街へ～、まちづくりアイデアコンペ in 東静岡、2024.12
- ◆梅澤秀太、藍野友輝、小野田鼓、齋藤慶悟：優秀賞、GINZA WELL-BEING CENTER-健康の民主化を目指した公共的な運動型商業施設の提案-、第12回ヒューリック学生アイデアコンペ、2024.11
- ◆八坂終吾、大木貴裕：佳作、GINZA SILVER CLUB、第12回ヒューリック学生アイデアコンペ、2024.11
- ◆藤崎知輝：入選、Re-BUILDING KOGANECHO-空き家×河川空間×高架下で何が出来るか-、学生プロジェクトデザインコンペティション 2024、2024.11
- ◆薄井李空、小野田鼓、齋藤慶悟：ワールドカップ賞（最優秀賞）、Marine Amoeba、第14回学生BIM&VRデザインワールドカップ、2024.11
- ◆菊池康太：入選、カラスな感性で創る家、GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD 2024、2024.10
- ◆三谷翼空、八阪終吾、菊池康太：佳作、グリッド都市に線を引く、第12回大東建託賃貸住宅コンペ、2024.10
- ◆佐藤航太：優秀賞、舟屋と住まう、木の家グランプリ 2024、2024.10

【計画系】

- ◆鈴木貴之：第68回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、港湾施設の改修事例に見る港湾地域の土地利用計画の変更過程に関する研究、2025.1
- ◆小嶋英志朗：第68回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、博物館の諸室配置からみた浸水リスクの実態に関する研究-三大湾区海部に隣接する都府県を対象として-、2025.1
- ◆根本祐輔：第68回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、ショッピングセンターの津波避難ビルへの指定実態とその有用性に関する研究-南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として-、2025.1
- ◆今市尚大：2024年度日本建築学会大会【関東】都市計画部門「2024年度若手優秀発表賞」、水辺のカウンターバー「mizube bar」の設置による来訪者の滞在実態-東京都品川区天王洲アイランドでの実証実験を通して-、2024.10

- ◆竹内俊介：日本沿岸域学会研究討論会 2024「優秀講演賞」、大規模水害時の避難リスクに関する研究-江東5区の避難所収容能力の実態-、2024.11
- ◆嶋川隼央・鈴木陸・高田悠真・森田健太郎：スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション 2024「優秀賞」、ウォーターブルブラン-「見る・動く」健康なまち 東大島-、2024.11

学外活動（講演・講義等）

- ◆菅原遼：気候変動時代における海拔ゼロメートル地域の水害リスクとフローティングアーキテクチャーの可能性、都立深川高等学校、出張講義、2024.12（出張講義）
- ◆菅原遼：East Tokyo Mizube-ba plan、荒川放水路通水100周年アニバーサリーフェス、2024.10（展示）
- ◆菅原遼：第36回研究討論会報告、沿岸域学会誌 第37巻 第2号、pp.45-47、2024.9（雑誌掲載）
- ◆菅原遼：気候変動対応としてのフローティングアーキテクチャーの可能性、The 9th International Ocean Architectural Design Workshop、2024.8（講演）
- ◆菅原遼：East Tokyo Mizube-ba plan、荒川放水路通水100周年イベント カウントダウンフェス、2024.7（展示）
- ◆星上幸良、高橋孝二、菅原遼：浸水被害と新耐震基準以前の家屋被害、桜建会報 No.130、p.7、2024.7（雑誌掲載）
- ◆菅原遼：先進事例に学ぶ地域主体による水辺活用の取り組み、品川区観光振興協議会 第24回水辺活用部会、2024.7（講演）
- ◆菅原遼：官民学の連携による水辺テーブルの取り組み+天王洲の水辺の未来ビジョン「Tennoz Waterable Plan」、水とみどりヒカリのTENNOZ 未来ビジョン発表会、2024.5（講演）
- ◆菅原遼：KOTO MIZUBE-BA PLAN、隅田川マルシェ@越中島、2024.5（展示）

学外活動（委員会活動等）

- ◆菅原遼：日本建築学会、水資源の受容型活用デザイン【若手奨励】特別研究委員会 委員長
- ◆菅原遼：日本建築学会、親水とSDGs 小委員会 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会、フローティング建築小委員会 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会、水環境運営委員会 委員
- ◆菅原遼：日本建築学会、海洋建築本委員会 委員
- ◆菅原遼：日本建築学会、卒業論文等顕彰事業委員会 委員
- ◆菅原遼：日本沿岸域学会、企画運営委員会 委員

研究助成・受託研究

- ◆菅原遼：受託研究、手賀沼の水辺環境改善に向けた空間整備の検討、株式会社水辺総研
- ◆菅原遼：受託研究、横浜港本牧埠頭に建つ物流倉庫の模型製作、株式会社ヤマタネ
- ◆菅原遼：令和6年度科学研究費助成事業、都市河川の親水まちづくりに資する親水組織の形成過程と役割の解明

ウォーターフロント都市工学研究室（寺口・桜井）

口頭発表・ポスター発表

- ◆寺口敬秀、桜井慎一、佐藤友香：水上飛行機の就航地に適する漁港選定に関する研究-（その2）施設要件と候補地での意識調査-、第69回土木計画学研究発表会（春大会）土木計画学研究・講演集 Vol.69、講演番号 P02-5、2024.5
- ◆佐藤友香、寺口敬秀、桜井慎一：漁港空間の多目的利用に関する研究-岩手県および宮城県を対象とした調査-、日本沿岸域学会研究討論会 2024 講演概要集 No.36、講演番号 1-3、2024.7

- ◆五江洲佑真、寺口敬秀、桜井慎一：小型船舶を活用した災害支援に関する研究-全国沿岸の孤立化危険地域の抽出と海の駅の評価-、日本沿岸域学会研究討論会 2024 講演概要集 No.36、講演番号 6-2、2024.7
- ◆阿部拓真、寺口敬秀、桜井慎一、佐藤智之：防災船着場の認知とアクセス向上に関する研究-都内の防災船着き場を対象として-、日本沿岸域学会研究討論会 2024 講演概要集 No.36、講演番号 6-3、2024.7
- ◆杉田祐将、寺口敬秀、桜井慎一、佐藤友香：海岸の管理運営に即し

教員研究業績 研究室活動業績

た多目的利用の推進に関する研究 - 全国の海水浴場を対象とした調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.11-12, 2024.7

◆石田大誠、寺口敬秀、桜井慎一、五江洲佑真：海辺に立地するグランピング施設に関する研究 - 製造業者と施設運営者を対象としたアンケート調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.13-14, 2024.7

◆秋吉佳乃子、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：運河河川に面する建築物の水辺側ファサードに関する研究 - 天王洲運河、高浜運河、仙台堀川を対象とした調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.15-16, 2024.7

◆鈴木陽斗、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：クルーズターミナルにおける多目的空間利用に関する研究、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.17-18, 2024.7

◆江口楓、寺口敬秀、桜井慎一、杉田祐将：ライフジャケットの利用促進に関する研究 - 事前予約で貸出を行っている事業者に対する調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.33-34, 2024.7

◆草野真司、寺口敬秀、桜井慎一、石田大誠：水上バイク利用に関する条例および自主ルールの整備実態、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.35-36, 2024.7

◆井田帆南、寺口敬秀、桜井慎一、石田大誠：海辺に立地する空き家及び民家のリノベーションに関する研究 - 広島県を対象とした調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.41-42, 2024.7

◆丸山愛未、寺口敬秀、桜井慎一、鈴木陽斗：サーフィンが地域の活性化に及ぼす影響に関する研究 - 千葉県外房沿岸市町村を対象とした調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.43-44, 2024.7

◆阿部拓真、寺口敬秀、桜井慎一：防潮堤ウォールアートの効果と課題に関する研究、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.45-46, 2024.7

◆桜井慎一、寺口敬秀、佐藤友香：海水浴場における情報機器の利活用に関する研究 - 日本全国の海水浴場を対象とした調査 -、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.47-48, 2024.7

◆寺口敬秀：海洋掘削リグの仕様と居住環境について、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.73-76, 2024.7

◆芦ヶ原治希、寺口敬秀、桜井慎一、鈴木陽斗：港湾区域における放置艇対策の現状と課題、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 2024（海洋建築）、pp.83-84, 2024.7

◆阿部拓真、寺口敬秀、桜井慎一：津波避難円滑化に向けた鉄道線路横断の方策に関する研究 - 線路横断必要地区の抽出 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.487-488, 2024.12

◆江口楓、寺口敬秀、桜井慎一、杉田祐将：ライフジャケットの利用促進に関する研究 - 購入品を海水浴場で着用している人を対象とした調査 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.489-490, 2024.12

◆草野真司、寺口敬秀、桜井慎一、石田大誠：水上バイク利用に関する条例およびローカルルールに関する研究 - 全国の湖沼および海水浴場を対象とした調査 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.491-492, 2024.12

◆秋吉佳乃子、寺口敬秀、桜井慎一、杉田祐将：水辺に立地する建築物と水面との関わりに関する研究 - 東京都の運河・河川を対象とした調査 -、令和 6 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.483-494, 2024.12

◆寺口敬秀、桜井慎一、唐崎雄亮：津波避難の阻害要因となりうる鉄道線路の円滑な横断策に関する研究、第 31 回海洋工学シンポジウム、2025.3

著書・執筆等

◆寺口敬秀：様々な津波避難シェルターの性能と設置、運用マネジメント、日本建築学会海洋建築委員会、2024 年度日本建築学会大会（関東）海洋建築部門研究協議会「津波避難における最後の砦としての建築の役割を考える」、pp.16-21, 2024.8

◆桜井慎一：主旨説明、日本建築学会海洋建築委員会、2024 年度日本建築学会大会（関東）海洋建築部門研究協議会「津波避難における最後の砦としての建築の役割を考える」、pp.1-2, 2024.8

受賞等

◆寺口敬秀：理工学部教育貢献賞～Teaching Awards～、日本大学理工学部、2024.12

所属学生の受賞等

◆草野真司、芦ヶ原治希：スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション 2024・優秀賞、スポーツ庁、2024.11

◆杉田祐将：日本マリナー・ビーチ協会の創立 50 周年記念論文・国土交通省港湾局長賞、海岸の管理運営に即した多目的利用の推進、日本マリナー・ビーチ協会、2024.11

◆芦ヶ原治希：2024 年度日本建築学会（関東）学術講演会若手優秀発表賞、港湾区域における放置艇対策の現状と課題、日本建築学会、2024.11

◆芦ヶ原治希：理工学部長賞、日本建築学会における「若手優秀発表賞」を受賞し日本大学の名声を高めた功績、日本大学理工学部 2025.3.

学外活動（講演・講義等）

◆寺口敬秀：津波避難における最後の砦としての建築の役割を考える、様々な津波避難シェルターの性能と設置、運用マネジメント、2024 年度日本建築学会大会（海洋建築部門）研究協議会、2024.8

◆桜井慎一：津波避難における最後の砦としての建築の役割を考える、主旨説明、2024 年度日本建築学会大会（海洋建築部門）研究協議会、2024.8

学外活動（委員会活動等）

◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員

◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・海洋エネルギー支援施設小委員会 幹事

◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員

◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波避難シェルター小委員会委員

◆寺口敬秀：日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員

◆寺口敬秀：日本観光研究学会・学術委員会 委員

◆桜井慎一：船橋市開発審査会 会長

◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 委員

◆桜井慎一：館山市建設工事総合評価委員

◆桜井慎一：日本マリナー・ビーチ協会 理事

◆桜井慎一：国土交通省関東運輸局・海の駅防災事業ワーキンググループ 委員

◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員長

◆桜井慎一：日本建築学会・学術推進委員会 委員

◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 委員

◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員

研究助成・受託研究

◆寺口敬秀：研究奨励寄付金、日本沿岸域学会、北海道における津波避難円滑化に向けた鉄道線路の適切な横断施設設置方策の検討

居駒研究室

審査付論文

- ◆福永勇太、居駒知樹、譚雷：垂直軸風車のピッチ制御が一点係留浮体の振り回り運動に与える影響に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会論文集、第40巻、pp.35-47、2024.12
- ◆鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：ムーンプールを有するバージ型浮体の2次波強制力に与える越波やスロッシングの影響に関する研究、日本船舶海洋工学学会論文集、第40巻、pp.181-187、2024.12
- ◆増田光一、相田康洋、居駒知樹：津波漂流物と構造物の衝突評価へのMPS法の適用に関する基礎的研究、TEN Selected Papers - 津波災害を根絶する 海底防災技術の確率をめざして -、pp.126-134、学術図書、2024.9
- ◆増田光一、居駒知樹、相田康洋：ハザードチェーンを考慮した沿岸建築物に対する耐津波設計に関する基礎的研究、TEN Selected Papers - 津波災害を根絶する 海底防災技術の確率をめざして -、pp.135-141、学術図書、2024.9
- ◆Lei Tan, Ruiyuan Chang and Tomoki Ikoma, "Numerical analysis of a projecting wall type oscillating water column (PW-OWC) wave energy converter in regular waves," Journal of Hydrodynamics, Vol. 36, pp.479-491, 2024.7
- ◆Yuta Fukunaga, Tomoki Ikoma and Lei Tan, "A Numerical Study on Swing Motion of Single Point Mooring Floating Vertical-Axis Wind Turbines with Variable-Pitch Blades", Proceedings of the ASME 2024 43rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2024), ASME, OMAE2024-127454, 2024.9
- ◆Lei Tan, Yingyi Liu and Tomoki Ikoma, "Effects of Second-Order Hydrodynamic Loads on a Barge-Type Floating Wind Turbine Platform With Moonpools", Proceedings of the ASME 2024 43rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2024), ASME, OMAE2024-124158, 2024.9
- ◆Lei Tan, Ruiyuan Chang and Tomoki Ikoma, "Numerical simulation of an OWC-type wave energy converter with projecting walls in regular waves," Proceedings of the 6th International Conference on Renewable Energies Offshore (RENEW 2024), Innovations in Renewable Energies Offshore, CRC Press, pp.267-274, 2024.11
- ◆Allan Gomes, Fernando Borguetti, Guilherme Moraes, Sena Takahashi, Tomoki Ikoma and Kazuo Nishimoto, "Sustainable Floating City as a Solution to Rising Sea Levels: An Integrated Project for Northwest Coast of Brazil," Proceedings of the 4th World Conference on Floating Solutions (WCFS 2024), 2024.12

口頭発表・ポスター発表

- ◆Lei Tan, Ruiyuan Chang and Tomoki Ikoma, "Numerical Investigation on the Hydrodynamic Characteristics of a Floating PW-OWC Wave Energy Converter," Asian Offshore Wind, Wave and Tidal Energy Conference (AWTEC 2024 in Busan), oral presentation, 2024.10
- ◆鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：スロッシングおよび浮体への波被りがムーンプールを有するバージ型浮体の2次和周波数強制力に与える影響について、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第38号、2024S-GS5-2、pp.385-390、2024.5
- ◆福永勇太、居駒知樹、譚雷：一点係留された洋上風力発電浮体の振り回り運動シミュレーションの減衰力項の影響について、日本船舶海洋工学

会講演会論文集、第38号、2024S-GS9-2、pp.449-452、2024.5

- ◆福永佳晏、居駒知樹、譚雷、林昌奎：高周速比の回転円柱が流体力係数と流場に与える影響に関する実験的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第38号、2024S-GS9-3、pp.453-456、2024.5
- ◆常睿遠、譚雷、居駒知樹：定常波におけるプロジェクトングウォール付振動水柱型波力発電装置の数値モデリング、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第38号、2024S-GS19-4、pp.617-620、2024.5
- ◆福永佳晏、居駒知樹、譚雷、林昌奎：高周速比の回転円柱に作用する流体力と周辺の流速及びレイノルズ応力の分布に関する実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2024年度講演概要集No.36、file 9-2、2024.7
- ◆鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：浮体上への越波がムーンプール付きバージ型浮体の定常波漂流力に与える影響について、日本沿岸域学会研究討論会、2024年度講演概要集No.36、file 9-3、2024.7
- ◆千田悠斗、居駒知樹、福永勇太、譚雷：垂直軸型ツイン風車のピッチ制御による一点係留浮体の風追従運動へのアシスト効果の実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2024年度講演概要集No.36、file 12-4、2024.7
- ◆中澤澤生、居駒知樹、譚雷：連結浮体式太陽光発電の運動特性と索張力特性に関する実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2024年度講演概要集No.36、file 13-1、2024.7
- ◆福永勇太、居駒知樹、千田悠斗：一点係留浮体の振り回り運動時における減衰力の影響について、日本沿岸域学会研究討論会、2024年度講演概要集No.36、file 13-2、2024.7
- ◆福永勇太、千田悠斗、居駒知樹：一点係留された可変ピッチ型垂直軸風車の振り回り運動に与える可変角の影響 その1 ピッチ角の可変幅の影響、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集、10047、2022
- ◆千田悠斗、福永勇太、居駒知樹：一点係留された可変ピッチ型垂直軸風車の振り回り運動に与える可変角の影響 その2 風速と周速比に与える影響、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集、10048、2022
- ◆福永佳晏、居駒知樹、譚雷、林昌奎：CFD計算と水槽実験による回転円柱周辺の流場の乱流特性に関する調査、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第39号、2024A-OS10-3、pp.467-472、2024.11
- ◆鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：ムーンプールを有するバージ型浮体の運動応答に与える越波やスロッシングの影響について、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第39号、2024A-GS8-3、pp.875-880、2024.11
- ◆福永勇太、居駒知樹、譚雷、貝澤柊平、永田友哉：一点係留されたムーンプール付きボンツーン型浮体の振り回り運動中の前進速度の影響に関する考察、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第39号、2024A-GS12-4、pp.993-999、2024.11
- ◆常睿遠、譚雷、居駒知樹、朱泊セン：プロジェクトングウォール付振動水柱型波力発電装置の数値モデリングおよびダンピング係数の再検討、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第39号、2024A-GS20-3、pp.1205-1210、2024.11
- ◆福永佳晏、居駒知樹、譚雷、林昌奎：高周速比の回転円柱に作用する流体力と周辺の流速分布に関する実験的研究、令和6年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.463-464、2024.12
- ◆堤龍也、居駒知樹、譚雷：セミサブ型洋上風力発電浮体の流体力に与える前進速度の影響について、令和6年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築部会、pp.465-466、2024.12
- ◆中澤澤生、居駒知樹、譚雷：連結浮体式太陽光発電の波浪中挙動に関する実験的研究、令和6年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築部会、pp.467-468、2024.12
- ◆鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：ムーンプールを有するバージ型浮体の運動応答に与える越波やスロッシングの影響について、令和6年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築部会、pp.469-470、2024.12

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆福永勇太、居駒知樹、譚雷：一点係留されたムーンブル付きバージ型浮体の前進速度が振れ回り運動に与える影響、令和6年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築部会、pp.471-472, 2024.12
- ◆宮武竜希、居駒知樹、増田光一：PW-OWC型波力発電浮体の波漂流力の特性に関する基礎的研究、令和6年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築部会、pp.473-474, 2024.12

著書・執筆等

- ◆Tomoki Ikoma (他3名) Editors: Proceedings of the Third World Conference on Floating Solutions (WCFS 2023, Tokyo), Lecture Notes in Civil Engineering, Vol. 465, Springer, 29 June 2024.

所属学生の受賞等

- ◆鈴木健斗：スロッシングおよび浮体への波被りがムーンブルを有するバージ型浮体の2次和周波数波強制力に与える影響について、日本船舶海洋工学会、2024年5月
- ◆鈴木健斗：浮体上への越波がムーンブル付きバージ型浮体の定常波漂流力に与える影響について、日本沿岸域学会、2024年7月
- ◆中澤響生：連結浮体式太陽光発電の運動特性と索張力特性に関する実験的研究、日本沿岸域学会、2024年7月

学外活動（講演・講義等）

- ◆居駒知樹：「工学系女性活躍の今後」、基調講演、教室の外の理科の世界、第6回大学・企業との連携講座、千葉県男女共同参画センター主催、2025年3月9日
- ◆居駒知樹：「浮体式洋上風力の設置と日本における課題について」、第8回洋上風力セミナー、一般財団法人 港湾空港総合技術センター (SCOPE)、2024年10月9日
- ◆居駒知樹：「海洋工学」とは？ 浮体式構造物と波力発電、TLG Group インタビュー、WEB掲載、<https://tlg.co.jp/interview-professor-ikoma/>、2024年7月
- ◆Tomoki Ikoma: "Ocean Renewable Energy: Wave, Tidal, Wind and others." SJTU SDG Lecture Course on Green Shipping and Marine Renewable Energy, Shanghai Jiao Tong University (on-line lecture), China, 4 July 2024.

学外活動（委員会活動等）

- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆日本沿岸域学会 副会長、理事
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 (OEAJ) 理事 (学術担当)
- ◆日本海洋工学会 理事、運営委員 (日本沿岸域学会担当)
- ◆テクノ・オーシャン・ネットワーク (TON) 理事
- ◆PACON International, Board member (理事)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・フローティング建築小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学・海洋環境研究企画部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆OMAE 2024 & OMAE 2025 Symposium Coordinator of Ocean Space Utilization
- ◆ASME, Extended Executive Committee Member of Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OOAE)
- ◆RENEW 2024: International Scientific Committee Member
- ◆WCFS 2024 and 2025: International Scientific Committee Member
- ◆Techno-Ocean 2024: 実行委員、Technical Program Committee 委員、Panel Session 4 (洋上風力発電開発) コーディネーター
- ◆Renewable Energy 2025 分科会8 (海洋エネルギー) Co-Readers
- ◆IEC TC114 国内委員
- ◆IEC TC114 MT 62600-103 - Guidelines for WEC testing、国際委員
- ◆NEDO、特殊な設置形態の太陽光発電設備に関する安全性確保のためのガイドライン策定委員会 委員
- ◆日本港湾協会 (国土交通省)、洋上風力導入促進に向けた港湾のあり方に関する検討会、委員
- ◆日本 ERI 株式会社、建築基準法に基づく建築物構造物性能評価委員会 委員
- ◆一般社団法人 みなと総合研究財団 審査委員会 委員
- ◆OMAE2026 in Tokyo: Local Organizing Committee Co-chair
- ◆土木学会 会員
- ◆ASME member
- ◆海洋技術フォーラム 幹事
- ◆海洋工学懇談会 幹事

研究助成・受託研究

- ◆居駒知樹：科学研究費補助金・基盤研究 (B)、可変ピッチ機構を導入した垂直軸型風力発電浮体の姿勢制御を含めた概念実証研究、課題番号：23K22975
- ◆居駒知樹：受託研究、(一財) 港湾空港総合技術センター、スマートグロース港湾技術に関する基礎調査 (その2)
- ◆居駒知樹：共同研究、パンフィックコンサルタンツ株式会社、コンクリート製浮体式風車の連成解析
- ◆居駒知樹：共同研究、東京電力ホールディングス株式会社・東京大学、スパー型浮体に働く周囲流体場の流体力学的特性に関する研究
- ◆居駒知樹：(一財) 港湾空港総合技術センター 教育・研究環境改善のための助成、TP15内2次元造波水槽改修

惠藤研究室

審査付論文

- ◆Hiroaki Eto, Takumi Terada and Ryutarō Kinoshita: Ocean Wave Focusing Effect by Submerged Horizontal Plate Using Particle Method, Proceedings of ISOPE2024, TPC-0339, 2024.06
- ◆Hiroaki Eto, Wataru Suzuki, Mikimasa Sugahara, Hitomi Kashima and Yuichi Okazaki: Selection of Mooring Specification of Elastic Mooring System for Very Large

Floating Structures, Proceedings of ISOPE2024, TPC-0566, 2024.06

- ◆惠藤浩朗、寺田拓海、木下龍太郎：粒子法による没水平板の波浪集波効果に関する基礎的研究、特集号 (海洋開発) 論文、80巻18号、24-18106, 2024.06
- ◆惠藤浩朗、鈴木涉、菅原幹将、岡崎雄一：弾性体の特性および水深変更に伴う弾性係留システムの係留設計、特集号 (海洋開発) 論文、80巻18号、24-18107, 2024.06

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆ 惠藤浩朗、田村直輝、西田淳、石橋榮稔：粒子法によるハイブリッドケーソン式防波堤の揚圧力と抑圧力算定に関する基礎的研究、特集号（海洋開発）論文、80巻18号、24-18168、2024.06

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 惠藤浩朗、増田光弘：船舶における居住空間の施設設計とその課題、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 オrganイズドセッション、pp.65-68、2024.08
- ◆ 居駒知樹、惠藤浩朗：海洋開発における作業船の居住環境、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 オrganイズドセッション、pp.69-72、2024.08
- ◆ 神田匠、鈴木渉、惠藤浩朗：弾性係留索の特性変化に伴う係留設計に関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.91-92、2024.08
- ◆ 鈴木渉、神田匠、惠藤浩朗：水深変化に伴う超大型浮体式構造物の係留索諸元選定に関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.93-94、2024.08
- ◆ 寺田拓海、惠藤浩朗：三日月型没水平板の集波効果に関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.97-98、2024.08
- ◆ 田村直輝、石橋榮稔、西田淳、惠藤浩朗：SPH法によるハイブリッドケーソン式防波堤の波圧算定 その1 透過マウンドのモデル化と前面波圧、揚圧力、抑圧力の算定、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.99-100、2024.08
- ◆ 石橋榮稔、田村直輝、西田淳、惠藤浩朗：SPH法によるハイブリッドケーソン式防波堤の波圧算定 の2 フーチング条件に伴う各圧力の分布特性、揚圧力、抑圧力の算定、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.101-102、2024.08
- ◆ 藤澤佐翔、惠藤浩朗：垂直軸型風車に作用する風荷重の特性把握、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.105-106、2024.08
- ◆ 小島優希、川名響、寺田拓海、惠藤浩朗、石橋榮稔、西田淳：SPH法によるハイブリッドケーソン式防波堤の不規則波による波圧の算定、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-54、2024.12
- ◆ 伊藤泰子、古川智尋、寺田拓海、惠藤浩朗：没水平板における規則波の集波効果に関する基礎的研究、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-55、2024.12
- ◆ 野呂明日美、赤木大晟、鈴木渉、惠藤浩朗、長岡恵介：海底水深変化に対応した弾性係留システムの諸元選定に関する基礎的研究、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-56、2024.12
- ◆ 神田匠、根岸拓未、鈴木渉、惠藤浩朗：パイ・クランブウエイトを用いたチェーンカテナリー係留の係留特性、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-57、2024.12
- ◆ 佐藤匠、藤澤佐翔、鈴木渉、惠藤浩朗：開閉式プレートの使用材料および開閉角制御に伴う交差軸風車の風車トルクに関する検討、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-58、2024.12

- ◆ 丸尾成央、望月優名、寺田拓海、惠藤浩朗：津波遡上低減効果が期待される没水構造物による波浪変形に関する基礎的研究、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-59、2024.12

- ◆ 周嘉祥、坂本彩乃、寺田拓海、惠藤浩朗：閉鎖水域のスロッピングに伴う円形浮体式構造物の運動応答、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-60、2024.12

- ◆ 今悠紀、寺田拓海、惠藤浩朗：SPH法を用いた水柱崩壊による水面波の生成と水柱サイズの関係性、第68回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-61、2024.12

受賞等

- ◆ 惠藤浩朗：情報基礎、理工学部教育貢献賞 -Teaching Awards-、2024.12

所属学生の受賞等

- ◆ 藤澤佐翔：2024年度日本建築学会大会〔関東〕海洋建築部門「2024年度若手優秀発表賞」、垂直軸型風車に作用する風荷重の特性把握、2024.12

学外活動（講演・講義等）

- ◆ 惠藤浩朗：建築で“海”に新たな空間をデザインする、千葉敬愛高等学校、出張講義、2024.5（出張講義）
- ◆ 惠藤浩朗：建築で“海”に新たな空間をデザインする、八千代松陰高等学校、出張講義、2024.10（出張講義）
- ◆ 惠藤浩朗：大学における建築工学・土木工学の学び、千葉敬愛高等学校、出張講義、2025.1（出張講義）

学外活動（委員会活動等）

- ◆ 日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 主査
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆ 日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員
- ◆ 国際津波防災学会 総務担当役員
- ◆ 国際津波防災学会・総会／学術集会 コーディネーター
- ◆ 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー

研究助成・受託研究

- ◆ 惠藤浩朗：受託研究、浮体式構造物の運動応答及び係留に関する研究、CRESS FEED 株式会社
- ◆ 惠藤浩朗：受託研究、ハイブリッドケーソン式防波堤の揚圧力と抑圧力に関する研究、日本エンジニアリング株式会社

相田研究室

審査付論文

- ◆ Yusuke Shibuya, Yasuhiro Aida & Tomoki Ikoma: Study on the Increase in Annual Maximum Significant Wave Height Due to the Intensification of Typhoons Using NOWPHAS Wave Observation Data, SPRINGER NATURE, Proceedings of the Third World Conference on Floating Solutions(WCFS 2023), p.527-543

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 澁谷祐輔、相田康洋、居駒知樹：極値統計を用い算出された過去の設

計波高を越える波浪に関する調査研究、日本沿岸域学会研究討論会講演概要集（CD-ROM）p.36.

- ◆ 澁谷祐輔、相田康洋、居駒知樹：過去の設計波高を越える年最大有義波高に関する一考察、2024年度日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（CD-ROM）

受賞等

- ◆ 令和6年度日本大学理工学部 学会・協会賞（2023年度住田海事技術奨励賞受賞図書（海洋建築シリーズ海洋建築序説）の功績により）
- ◆ 令和6年度日本大学理工学部教育貢献賞（Teaching Awards）

教員研究業績 研究室活動業績

学外活動（講演・講義等）

- ◆佐渡島 SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト：試してみよう！
海でつくる電気の未来 ワークショップ開催

学外活動（委員会活動等）

【相田 康洋】

- ◆船舶海洋工学会、海洋環境・海洋工学合同研究委員会、委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆沿岸域学会 企画運営委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 幹事

研究助成・受託研究

- ◆公益財団法人松井角平記念財団研究助成：厳島神社社殿に見る海上立地のための計画的・技術的・構法的な対応策に関する調査研究

北嶋研究室

口頭発表・ポスター発表

【日本建築学会大会】

- ◆杉山浩隆、波田雅也、奥野陸人、竹内健一、中西三和、安達洋、北嶋圭二：折返しプレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その7 剛域長さの再評価と単調圧縮荷重実験結果の検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.1217-1218, 2024.8
- ◆奥野陸人、波田雅也、杉山浩隆、竹内健一、中西三和、安達洋、北嶋圭二：折返しプレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その8 繰返し載荷時における局部座屈区間の変形性能）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.1219-1220, 2024.8
- ◆波田雅也、関祥汰、西海翔太、奥野陸人、竹内健一、中西三和、安達洋、北嶋圭二：中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その3 実大実験の概要と芯材降伏タイプの実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.1221-1222, 2024.8
- ◆関祥汰、波田雅也、西海翔太、奥野陸人、竹内健一、中西三和、安達洋、北嶋圭二：中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その4 中鋼管降伏タイプの実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.1223-1224, 2024.8
- ◆土田亮章、波田雅也、柳田佳伸、竹内健一、北嶋圭二：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究（その9 暴露10年が経過した実大滑り基礎の加力実験）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.833-834, 2024.8
- ◆山田遊耶、谷内颯真、寺岡大輝、中西三和、安達洋、北嶋圭二：上部構造が剛体および弾性体の滑り基礎構造建物の浮上り挙動に関する実験的研究（その3 上層弾性体の滑りおよび浮上り挙動の予測）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.835-836, 2024.8
- ◆吉野峻、谷内颯真、寺岡大輝、中西三和、安達洋、北嶋圭二：浮上り挙動を伴う塔状比の大きい滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その1 試験体概要および定常波加振実験）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.837-838, 2024.8
- ◆谷内颯真、吉野峻、寺岡大輝、中西三和、安達洋、北嶋圭二：浮上り挙動を伴う塔状比の大きい滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その2 非定常波加振実験）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.839-840, 2024.8
- ◆塚田馨、山田遊耶、中西三和、安達洋、北嶋圭二：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究（その4 構造種別の異なる滑り基礎構造建物の時刻歴応答解析）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.937-938, 2024.8
- ◆寺岡大輝、塚田馨、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏時層間変形角の推定（その2 10階建てJSSIテーマストラクチャーに対する検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.617-618, 2024.8
- ◆江口琢菜、扇谷匠己、吉野峻、北嶋圭二：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究（その5 高層集合住宅を対象とした検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.381-382, 2024.8

- ◆扇谷匠己、江口琢菜、吉野峻、北嶋圭二：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究（その6 高層集合住宅を対象とした損傷評価および応急危険度判定）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.383-384, 2024.8
- ◆吉原楽、波田雅也、竹内健一、北嶋圭二：木造多層建物への次世代制震構造システムの有効性に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.49-50, 2024.8
- ◆永吉琉莞、菊地優希、北嶋圭二：既存アクチュエータを利用したスプリング式共振加振装置の開発、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.25-26, 2024.8

【理工学部学術講演会】

- ◆小出裕輝乃、中館良太、谷内颯真、北嶋圭二：マルチディンブルを有する滑り基礎構造の1方向加振実験、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-10, pp.31-32, 2024.12
- ◆谷内颯真、中西三和、安達洋、北嶋圭二：非定常波加振時の滑り基礎構造建物の滑りおよび浮上り挙動に関する研究、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-11, pp.33-34, 2024.12
- ◆吉原楽、北嶋圭二：木造多層建物への次世代制震構造システムの有効性に関する研究、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-12, pp.35-36, 2024.12
- ◆岸本大誠、北嶋圭二：新耐震設計法で設計された建物の応答評価法に関する検討、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-13, pp.37-38, 2024.12
- ◆関祥汰、波田雅也、中西三和、安達洋、北嶋圭二：折返しプレースが組み込まれた鋼構造建物の必要性能に関する検討、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-14, pp.39-40, 2024.12
- ◆塚田馨、関祥汰、波田雅也、北嶋圭二：物流倉庫を対象とした折返しプレースの片掛け配置とV型配置の検討、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-15, pp.41-42, 2024.12
- ◆寺岡大輝、塩見義弘、北嶋圭二：間柱型ダンパーを用いた制震構造設計法に関する研究（その1 設計法の概要）、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-16, pp.43-44, 2024.12
- ◆塩見義弘、寺岡大輝、北嶋圭二：間柱型ダンパーを用いた制震構造設計法に関する研究（その2 10層鋼構造建物の制震構造設計スタディー）、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-17, pp.45-46, 2024.12
- ◆江口琢菜、吉野峻、佐藤萌、扇谷匠己、北嶋圭二：中高層RC造集合住宅を対象とした損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究（その1 1次モード応答抽出のためのフィルタの検討）、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-18, pp.47-48, 2024.12
- ◆吉野峻、江口琢菜、佐藤萌、扇谷匠己、北嶋圭二：中高層RC造集合住宅を対象とした損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究（その2 耐震壁方向の検討）、令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-19, pp.49-50, 2024.12
- ◆永吉琉莞、北嶋圭二：津波漂流物の衝突荷重算定式に関する調査、

教員研究業績 研究室活動業績

令和6年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-20、pp.51-52, 2024.12

著書・執筆等

- ◆北嶋圭二(分担執筆):「耐震構造の設計 学びやすい構造設計」第5版、日本建築学会関東支部、2024.4.10
- ◆北嶋圭二(分担執筆):「バッシブ制振構造設計・施工マニュアル」第4版・第4版別冊1、日本免震構造協会、2024.6.1.

所属学生の受賞等

- ◆吉原 奏: 木造多層建物への次世代制震構造システムの有効性に関する研究、2024年度日本建築学会大会学術講演木質構造部門優秀発表賞、2024.10
- ◆江口 琢 菜: 中高層RC集合住宅を対象とした損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究(その1 1次モード応答抽出のためのフィルタの検討)、令和6年度日本大学理工学部学術講演会 優秀発表賞(構造・強度部門)、2025.1

学外活動(講演・講義等)

- ◆北嶋圭二:「バッシブ制振構造設計・施工マニュアル」第4版改訂講習会、日本免震構造協会、2024.5.21(講師)
- ◆北嶋圭二: 日本建築学会関東支部既刊図書講習会「免震・制振構造の設計 一学びやすい構造設計」第2版第4刷、日本建築学会関東支部、2024.12.5(講師)

学外活動(委員会活動等)

【教授 北嶋圭二】

- ◆日本建築学会 会計理事
- ◆日本建築学会 企画運営委員会(委員)
- ◆日本建築学会 財務運営委員会(幹事)
- ◆日本建築学会 会館委員会(委員)
- ◆日本建築学会 卒業論文等顕彰事業委員会(委員)
- ◆日本建築学会 第24期代議員
- ◆日本建築学会 構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会(委員)
- ◆日本建築学会 既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会(幹事)

- ◆日本建築学会 大地震時耐震性能評価小委員会・基礎滑動構造WG(委員)
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会(委員)
- ◆日本建築学会 フローティング建築小委員会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部 講習会用構造テキスト委員会・耐震構造の設計執筆WG(委員)
- ◆日本建築学会関東支部 講習会用構造テキスト委員会・免震制振構造の設計執筆WG(委員)
- ◆日本コンクリート工学会 鉄筋コンクリート造津波避難施設の被害軽減化技術検討委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 資格制度委員会(委員長)
- ◆日本免震構造協会 資格制度委員会・運営幹事会(委員長)
- ◆日本免震構造協会 修士論文賞審査委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 技術委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 制振部材品質基準小委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 制振評価小委員会・制振普及WG(委員)
- ◆日本免震構造協会 バッシブ制振構造設計・施工マニュアル第4版編集委員会(委員)
- ◆日本沿岸域学会 理事
- ◆日本沿岸域学会 論文集編集委員会(委員)
- ◆ハウスプラス確認検査 高層評定委員会(委員)
- ◆ハウスプラス確認検査 耐震診断・耐震改修等評定委員会(副委員長)
- ◆日本建築検査協会 耐震判定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会 高層評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会(委員)
- ◆構造調査コンサルティング協会 構造物評定委員会(委員)

研究助成・受託研究

- ◆委託研究: 青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆研究奨励寄付金: 株式会社社長谷工コーポレーション、構造ヘルスマニタリングに関する研究
- ◆研究奨励寄付金: 株式会社名構設計、折返しプレート式屈曲拘束プレート(FP-BRB)に関する研究

福井・柴山研究室

審査付論文

- ◆金光俊徳、柴山淳、松井淳: 応急的断面修復した電柱模擬試験体の塩分侵入および腐食速度診断、コンクリート構造物の補修・補強・アップグレード論文報告集、Vol.24、pp.589-594, 2024.10
- ◆山田涼、柴山淳、西山峰広: せん断破壊型鉄筋コンクリート梁の光ファイバセンサを用いた詳細計測、日本建築学会技術報告集、Vol.30、No.76、pp.1286-1286, 2024.10
- ◆Yuki Seki, Atsushi Shibayama, Minehiro Nishiyama, Michio Kikuchi: Machine learning models for predicting the compressive strengths of ordinary Portland cement concrete and alkali-activated materials, Sustainable Materials and Technologies, Vol.42, pp. e01191, 2024.11.

口頭発表・ポスター発表

- ◆福井剛、吉永健治、柴山淳、浜原正行: プレキャストPC梁の力学的性状に及ぼす部分アンボンド領域長さの影響に関する実験的研究 その1 実験概要、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、pp.557-558, 2024.8.

- ◆吉永健治、福井剛、柴山淳、浜原正行: プレキャストPC梁の力学的性状に及ぼす部分アンボンド領域長さの影響に関する実験的研究 その2 実験結果、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、pp.559-560, 2024.8.
- ◆柴山淳、吉永健治、福井剛、浜原正行: プレキャストPC梁の力学的性状に及ぼす部分アンボンド領域長さの影響に関する実験的研究 その3 曲げ終局耐力算定式の提案、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、pp.561-562, 2024.8.
- ◆関優樹、柴山淳、西山峰広: 機械学習による普通および環境配慮型コンクリートの圧縮強度推定モデルの開発 その3: 説明変数が圧縮強度推定予測精度に与える影響、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、pp.445-446, 2024.8.
- ◆諸根宏行、柴山淳、西山峰広: 産業副産物を利用した環境配慮型コンクリートの材料力学特性、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、pp.1325-1326, 2024.8.
- ◆太田千陽、柴山淳、西山峰広、アルミナセメントを用いた配慮型コンクリートの高温加熱後常温力学特性、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、pp.337-338, 2024.8.

教員研究業績 研究室活動業績

◆山野井悠翔、宮川義範、柴山淳、坂下克之：分布型光ファイバセンサを用いた局所変形を受ける RC トンネル模型のひずみ計測、土木学会第 79 回年次学術講演会、pp.CS9-98、2024.9.

—— 著書・執筆等 ——

◆菊地道生、柴山淳、山本武志：フライアッシュを最大限活用する環境配慮型コンクリートの開発、コンクリート工学、Vol.62、No.6、pp.520-526、2024.6.

—— 受賞等 ——

◆福井剛：プレストレスト工学会賞 技術開発賞「プレストレスト木質部材の開発」、(公社)プレストレストコンクリート工学会、2024.5.

—— 学外活動 (講演・講義等) ——

◆柴山淳：産業研究所でコンクリートに携わって -10 年の歩みとこれから -、日本大学校門建築会・海洋建築系研究懇談会、2024.6.

◆柴山淳：環境配慮型コンクリートの開発および先端計測技術の構造実験への応用、日本大学校門建築会・構造系懇談会、No.173、2024.6.

—— 学外活動 (委員会活動等) ——

【福井 剛】

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規程指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工 WG 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 プレストレストコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の

設計改定 WG 主査

- ◆プレストレストコンクリート工学会 役員 (理事)
- ◆プレストレストコンクリート工学会「歴史的に見たプレストレストコンクリート建築と技術」続編 編集委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・PC 鋼材委員会 委員
- ◆日本 ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員
- 【柴山 淳】
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・会誌編集委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・PC 技術を用いた建造物の低炭素社会へ貢献に関する検討小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施検討委員会 委員
- ◆日本コンクリート工学会・関東支部若手会 21 委員

—— 研究助成・受託研究 ——

- ◆福井剛：受託研究、株式会社ピーエス三菱、部分アンボンド PC 梁の開発
- ◆福井剛：研究奨励寄付金、高耐久・高耐力なコンクリート構造建築の開発、株式会社フジタ
- ◆福井剛：研究奨励寄付金、PC 鋼材の付着の有無が PC 部材のせん断伝達性状に及ぼす影響、オリエンタル白石株式会社
- ◆柴山淳：研究奨励寄付金、日本コンクリート工学会、機械学習を活用した環境配慮型コンクリートの調合設計システムの開発

高橋研究室

—— 審査付論文 ——

◆郡司康浩、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の設計に用いる骨格曲線に関する検討、コンクリート工学論文集、第 36 巻、pp.13-26、2025.3

—— 口頭発表・ポスター発表 ——

<日本建築学会学術講演会>

- ◆寺岡大輝、塚田馨、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏時層間変形角の推定 その 2 10 階建て JSSI テーマストラクチャーに対する検討、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.617-618、2024.7
- ◆郡司康浩、王珂、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の力学性状に関する検討 その 4 コンクリート強度・軸力比・袖壁厚を変化させた試験体の実験概要、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.123-124、2024.7
- ◆王珂、郡司康浩、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の力学性状に関する検討 その 5 ひび割れ性状・ひずみ分布・等価粘性減衰定数、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.125-126、2024.7
- ◆宇賀神将、高橋孝二：スタジアムの下部構造における層せん断力係数分布に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.19-20、2024.7
- ◆友枝一馬、高橋孝二：スタジアム屋根の上下応答に対するつなぎ梁の抑制効果に関する研究、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.575-576、2024.7

- ◆内藤隼汰、高橋孝二：多層木質ラーメン構造の制震化に関する研究、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.113-114、2024.7
- ◆小寺直幸、金由爽、内藤隼汰、高橋孝二：CLT 耐震壁付き鉄骨造建物の設計法に関する研究 (その 1) 設計法の提案、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.839-840、2024.7
- ◆金由爽、小寺直幸、内藤隼汰、高橋孝二：CLT 耐震壁付き鉄骨造建物の設計法に関する研究 (その 2) 千鳥配置した 5 階建て建物の試設計、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集 pp.841-842、2024.7

<日本大学理工学部学術講演会>

- ◆宇賀神将、高橋孝二：下部構造の水平振動を考慮した片持ち屋根の地震応答に関する研究 - 片持ち屋根の張り出し長さと同軸剛性が推定式に与える影響について -、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度 B-54、2024.12
- ◆友枝一馬、高橋孝二：スタジアム屋根のリング効果を考慮した耐震設計における検討、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度 B-55、2024.12
- ◆尾崎太亮、高橋孝二：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の設計法に関する検討、第 68 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度 B-56、2024.12

<海洋工学シンポジウム>

- ◆高橋孝二、星上幸良、菅原 遼：令和 6 年能登半島地震の地震動による建築物の被害状況、第 31 回海洋工学シンポジウム、OES31-A0052、2025.3
- ◆星上幸良、高橋孝二、菅原 遼：複合災害としての津波状況、第 31 回海洋工学シンポジウム、OES31-A0025、2025.3

教員研究業績 研究室活動業績

著書・執筆等

- ◆高橋孝二：第13回司法支援建築会議建築紛争フォーラム「高層・超高層建築をめぐる建築紛争の現状と課題」報告、Vol.140 No.1796 日本建築学会、2025.1

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・司法普及交流部会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・PC建築専門研究委員会（委員）
- ◆日本建築学会・フローティング建築小委員（委員）
- ◆ハウスプラス・構造評定委員会（委員）

研究助成・受託研究

- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、水平スリットのみを配置する鉄筋コンクリート造袖壁付き柱構造の性状把握に関する共同研究
- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、中大規模木造建築物の制震化による耐震性向上、応答低減効果に関する共同研究
- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、木質ラーメン構造を実現するための新構法に関する共同研究
- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、杭基礎の構造ヘルスマonitoringに関する共同研究

星上研究室

審査付論文

- ◆中田祐希、宇多高明、野志保仁：斜め入射波作用下での河口部地形変化予測と河口導流堤の効果検討、土木学会論文集（海洋開発）、80巻18号、2024.06.
- ◆倉上桃佳、宇多高明、野志保仁：波による beach rock の剥離・移動を考慮した地形変化予測モデル、土木学会論文集（海洋開発）、80巻18号、2024.06.
- ◆田村真剛、宇多高明、野志保仁：風波作用下での平衡勾配概念を潮汐場へ応用した干潟平坦面の形成モデル、土木学会論文集（海洋開発）、80巻18号、2024.06.

口頭発表・ポスター発表

- ◆相川広将、宇多高明、野志保仁：台風の進路の違いがもたらす宮古島与那覇前浜ビーチの汀線変動、日本沿岸域学会研究討論会2024講演概要集、セッション16-4、pp.1-4、2024.7.
- ◆宇多高明、伊達文美、野志保仁、相川広将、佐久間和也：来間島東岸の来間港近傍で近年急速に進んだ堆砂、日本沿岸域学会研究討論会2024講演概要集、セッション16-2、pp.1-6、2024.7.
- ◆竹内俊介・菅原遼・星上幸良：大規模水害時の避難リスクに関する研究—江東5区の避難所収容能力の実態—、日本沿岸域学会研究討論会2024講演概要集、No.36（PDF）、セッション10-1、2024.7.
- ◆三浦颯斗・星上幸良・小林昭男・永野隼一：ドローン搭載型レーザースキャナーを用いた崖海岸の地層判別に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会2024講演概要集、No.36（PDF）、セッション3-3、2024.7.
- ◆星上幸良、小林昭男：学校・住宅の垂直避難可否一次診断の提案、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集10014、2024.9.
- ◆小林昭男・星上幸良：稲毛海浜公園におけるマイクロプラスチックの分布と種類、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集

10033、2024.9.

- ◆石橋遼祐・星上幸良：津波防災の共助に関する実態分析、2024年度日本大学理工学部学術講演会、J-17、2024.12.
- ◆大竹克典・星上幸良：ドローン搭載型レーザースキャナーを用いた崖海岸の地層判別に関する基礎的研究、2024年度日本大学理工学部学術講演会、J-18、2024.12.
- ◆中村皓・松澤拓人・石橋遼祐・星上幸良：防潮堤計画時の環境影響評価に関する研究、2024年度日本大学理工学部学術講演会、J-19、2024.12.
- ◆小河原玲音・星上幸良：東京湾奥部におけるコンブ育成を活用したブルーカーボンの実証研究、2024年度日本大学理工学部学術講演会、J-20、2024.12.

所属学生の受賞等

- ◆石橋遼祐（星上幸良 共著）：「優秀発表賞」、津波防災の共助に関する実態分析、2024年度日本大学理工学部学術講演会、J-17、2024.12.

学外活動（講演・講義等）

- ◆星上幸良：「複合災害リスクとは」、千葉県館山市、館山市防災ミーティング、2025.2.2.

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 津波WG 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会 災害委員会 委員
- ◆日本建築学会 SDGs 対応推進特別委員会 委員
- ◆千葉県旭市 海岸減災林検討委員会 副委員長

最新情報をSNSでチェック!!



令和7年度

大学院情報

海洋建築工学専攻では、以下の4つの科目群（環境系・計画系・構造系・総合）からなる授業科目と、4つの特別研究（海洋環境工学・海洋空間利用計画・海洋建築構造工学・海洋建築工学）からなる研究領域について、専門教員が指導します。

海洋建築工学専攻 履修モデル

| 科目群 | < 学部関連科目 > (参考) | 博士前期課程 1年次 | | 博士前期課程 2年次 | | | |
|-----|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|---|----|-----------------|--|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 環境系 | 海洋環境工学 | 海洋環境工学特論Ⅰ (海洋物理環境) | 海洋環境工学特論Ⅱ (海洋化学生物環境) | 海洋環境工学特別研究 海洋空間利用計画特別研究 海洋建築構造工学特別研究 海洋建築工学特別研究 ※上記特別研究は、下表の 専門教員が指導します。 | | | |
| | 海洋環境アセスメント | 海洋システム工学特論 | 海洋環境マネジメント特論 | | | | |
| | 海洋及び環境計測 | 海洋計測工学特論 | | | | | |
| | 水波工学 | 水波工学特論 | | | | | |
| 計画系 | 建築計画/海洋施設計画/ 親水空間計画 | 海洋建築計画特論 | 親水環境計画特論 | | | | |
| | デザイン演習 | 海洋建築デザイン特論 | 海洋建築ユニバーサル デザイン特論 | | | | |
| | 海洋空間計画と関連法規/ ウォーターフロント計画 | 港湾空間計画特論 | ウォーターフロント計画特論 | | | | |
| | 海洋資源と開発技術/防災安全工学 | 海洋空間利用計画特論 | 沿岸防災計画特論 | | | | |
| 構造系 | 構造力学/構造解析/振動工学/鋼構造 | 耐震構造設計特論 | 応答制御構造設計特論 | | | | |
| | 建築施工法/コンクリート構造 | 海洋建築構造工学特論Ⅰ (構造システム工学) | コンクリート構造工学特論 | | | | |
| | 地盤環境工学/防災安全工学 | 地盤基礎工学特論 | 海洋建築構造工学特論Ⅱ (地震リスク評価) | | | | |
| | 浮体工学/海洋構造物の構造計画 | 浮体工学特論 | 海洋構造物設計特論 | | | | |
| | 海洋建築の材料と施工法/沿岸域工学 | 海洋構造物建設特論 | 沿岸構造物設計特論 | | | | |
| 総合 | | 海洋建築技術者倫理 | 海洋建築プロジェクトマネジメント | | | 海洋建築特別演習 | |
| | | 計算工学特論Ⅰ(数値流体力学) | 計算工学特論Ⅱ(連続体力学) | | | | |
| | | 海洋建築情報システム工学特論 | 海洋建築工学特別講義Ⅰ (寄付講座) | | | 海洋建築工学 特別講義Ⅱ | |
| | | 海洋建築インターンシップⅠ・Ⅱ | | | | | |
| | | 海洋工学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | | | | | |

大学院特別研究担当教員 (博士前期課程)

| 授業科目 | 単位数 | 資格 | 学位の種類 | 担当教員 | 授業科目 | 単位数 | 資格 | 学位の種類 | 担当教員 |
|------------------|-----|-----|---------|--------|----------------|-----|-----|---------|--------|
| 海洋環境工学 特別研究 | 6 | 教授 | 博士(工学) | 居駒 知樹 | 海洋建築工学 特別研究 | 6 | 教授 | 博士(工学) | 福井 剛 |
| | | 教授 | 博士(工学) | 星上 幸良 | | | 教授 | 博士(工学) | 北嶋 圭二 |
| | | 准教授 | 博士(環境学) | 吉田 毅郎 | | | 教授 | 博士(工学) | 居駒 知樹 |
| 海洋空間利用計画 特別研究 | 6 | 教授 | 博士(工学) | 居駒 知樹 | | | 教授 | 博士(工学) | 星上 幸良 |
| | | 教授 | 博士(工学) | 星上 幸良 | | | 教授 | 博士(工学) | 高橋 孝二 |
| | | 准教授 | 博士(工学) | 恵藤 浩朗 | | | 准教授 | 博士(工学) | 恵藤 浩朗 |
| | | 准教授 | 博士(工学) | 佐藤 信治 | | | 准教授 | 博士(工学) | 佐藤 信治 |
| | | 准教授 | 博士(工学) | 山本 和清 | | | 准教授 | 博士(工学) | 山本 和清 |
| | | 准教授 | 博士(工学) | 江川 香奈 | | | 准教授 | 博士(工学) | 江川 香奈 |
| | | 准教授 | 博士(工学) | 長谷川 洋平 | | | 准教授 | 博士(工学) | 長谷川 洋平 |
| | | 准教授 | 博士(工学) | 相田 康洋 | | | 准教授 | 博士(工学) | 相田 康洋 |
| 海洋建築構造工学 特別研究 | 6 | 教授 | 博士(工学) | 北嶋 圭二 | | | 准教授 | 博士(環境学) | 吉田 毅郎 |
| | | 教授 | 博士(工学) | 福井 剛 | | | | | |
| | | 教授 | 博士(工学) | 高橋 孝二 | | | | | |

令和
6
年度

卒業生の就職状況および就職活動に向けて

1. 就職状況の全体像

昨年度(2025年3月末時点)の就職・進学状況を(表1)に示します。就職希望者の就職内定率は、学部・大学院ともに**ほぼ100%**となりました。令和6年度の就職活動は、2024年4月1日に施行された「働き方改革関連法」に起因して建設業界は深刻な人材不足、若手不足に陥り、各社とも人材の確保に積極的に取り組んでいます。ここ数年の就職状況は大変堅調な状態であると言えます。

2. 業種別就職内定先

本学科専攻の2025年3月卒業学生の主要内定企業一覧を(表2)に示します。就職先は、建設業(ゼネコン)が最も多く、令和6年度は63名であり全体の58%を占めています。また、住宅・不動産は12名(11%)、設計事務所は3名(3%)、であり、これらで全体の約7割を占めています。また、比較的土木寄りの業種である建設・海洋コンサルタントへの就職が24名(22%)いることや建設業の

中でもマリコン(表中の*)が多いことが本学科の特徴です。内定先企業名をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。

3. 就職活動のサポート

就職活動に際しては、学科が積極的なサポートを行っています。就職活動スケジュールを(表3)に示します。新3年生の前期の授業として「海洋建築工学キャリアデザイン」を実施しています。本授業では、最新の企業動向や就職活動における重要な情報を伝えます。また、大手のゼネコンや設計事務所、コンサルタントに内定した先輩方の体験談を座談会形式で聞くこともできます。これまでの就職指導の経験を通して、海洋建築工学科の学生の適性や嗜好を踏まえた内容としているため、他にはないものになっています。

海洋建築工学科OBOGによる会社説明会である「カイケンJOBスクール」(表3)では、海建の学生を熱望する企業が30社以上参

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

| | 学部 | | | 大学院 | | | 学部・院 合計 |
|----------|-----------|-----------|-----------|------------|----|------------|-----------|
| | 男子 | 女子 | 男女合計 | 男子 | 女子 | 男女合計 | |
| 学生数(人) | 134 | 28 | 162 | 28 | 1 | 29 | 191 |
| 就職希望者(人) | 69 | 17 | 86 | 26 | 0 | 26 | 112 |
| 内定 | 66 | 15 | 81 | 26 | 0 | 26 | 107 |
| 未定 | 3 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 内定率(%) | 96 | 88 | 94 | 100 | - | 100 | 96 |
| 進学希望者(人) | 39 | 7 | 46 | 1 | 0 | 1 | 47 |
| 決定 | 37 | 7 | 44 | 1 | 0 | 1 | 45 |
| 未定 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他(人) | 26 | 4 | 30 | 1 | 1 | 2 | 32 |
| 留学 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 休学・その他 | 8 | 2 | 10 | 1 | 1 | 2 | 12 |
| 卒研・修論未着手 | 16 | 1 | 17 | 0 | 0 | 0 | 17 |

表2 主要就職先企業一覧

*マリコン

| 業種 | 会社名 | 学部 | 大学院 | 業種 | 会社名 | 学部 | 大学院 | 業種 | 会社名 | 学部 | 大学院 |
|-----|-------------|----|-----|------------|----------|----|---------------|-----------|---------------|----|-----|
| 建設業 | 清水建設 | 2 | | 建設業 | あおみ建設* | 2 | | 建設コンサルタント | 日本港湾コンサルタント | 1 | |
| | 大成建設 | 8 | 1 | | 東洋建設* | 3 | | | 長大 | | 1 |
| | 大林組 | 4 | 4 | | 若築建設* | 3 | | | バシフィックコンサルタンツ | | 1 |
| | 鹿島 | 1 | | | 五洋建設* | 2 | 1 | | 国際航業 | | 1 |
| | 竹中工務店 | 1 | | | みらい建設工業* | 2 | | | 港湾空港総合技術センター | | 1 |
| | 戸田建設 | 3 | | | 住友林業 | 1 | | | 中央コンサルタンツ | | 1 |
| | フジタ | 2 | 1 | 三井ホーム | 1 | | 日本エンジニアリング | | 5 | | |
| | 前田建設工業 | 2 | | オープンハウス | 1 | | 日本工営 | | | 2 | |
| | 西松建設 | 1 | | タクトホーム | 1 | | 八千代エンジニアリング | | | 1 | |
| | 熊谷 | | 1 | 生和コーポレーション | 2 | | ドーコン | | | 1 | |
| | 長谷工コーポレーション | 4 | | 明和地所 | 1 | | エコー | | 1 | | |
| | 高松建設 | 1 | | 住友不動産 | 1 | | 浅井兼建築研究所 | 1 | | | |
| | 銭高組 | | 1 | 日本ハウズイング | 1 | | エムズ・アーキテクト | 1 | | | |
| | 大本組 | | 1 | 江東区 | 1 | | STRUCT DESIGN | | 1 | | |
| | 鴻池組 | 1 | | 墨田区 | 1 | | 石油資源開発 | 1 | | | |
| | 奥村組 | 1 | | 東京都 | 1 | | オリエンタルランド | 1 | | | |
| | りんかい日産* | 1 | | 埼玉県庁 | 1 | | NTT データニューソン | 1 | | | |
| | | | | | | | | | その他 | | |

学科就職担当 高橋孝二・長谷川洋平・寺口敬秀

加します。本来、これらの企業をすべて訪問するには、おそらく半年以上かかるでしょう。建築、土木、建設コンサルタント、エンジニアリングなど、様々な企業の情報を収集することができます。視野を大きく広げる機会とさせていただきます。また、建築学科との共催による「OBOGと学生との懇談会」(表3)は、建築関連企業に特化した就職イベントです。大手ゼネコンを含む約80社が参加し、企業側の説明者は両学科のOBOGです。建設業に進む学生の8割は、これらのイベントの参加企業に就職しています。各種イベントを最大限に有効活用し、日本大学の強みであるOBOGネットワークを駆使して、希望する企業への就職内定を勝ち取りましょう。

令和7年度の学科の就職指導担当は高橋、江川、寺口、学科教室事務の担当者がフォローします。学科教室事務室は13号館3階1331室です。対応時間は平日9～17時です。また、moodleの「2027卒 就職関連情報」ページには、学科の就職イベントやインターンシップおよび会社説明会、求人情報などを随時掲載しています。こまめに確認するように心掛けてください。さらに、13号館1階の「キャリア支援センター」では、企業情報やOBOGの活動履歴の閲覧に加え、履歴書の作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んでみてください。

4. 本年度の就職活動に向けて

企業の採用活動の時期は、年々早期化する傾向が見られます。大手ゼネコンや大手設計事務所は、かなり早期に採用活動を開始しています。有利に就職活動を進めるためには、夏期インターンシップ(8～9月頃)に参加するなど、情報収集を行うとともに計画性をもって活動していく必要があります。また、早期に採用活動を実施する企業は、夏期インターンシップや現場見学会において、リクルーターによる面談が行われ学生の選抜が進められます。これは実質的な面接です。年内に内々定を出す企業もあります。それ以外の多くの企業は、採用時期は若干遅くなりますが、各種の就職イベントが次々に開催されます。そのため、夏ごろには就職の方向性(業種・職種・

企業規模等)を決めておく必要があります。各企業の開催日程が重複するため、それほど多くのイベントには参加出来ないためです。インターンシップへの参加は就職活動の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知り、企業は学生と巡り会う機会として、双方のメリットがあるため、この数年で開催頻度が急速に増えてきており、その重要度も増す傾向にあります。特に、夏期インターンシップには、興味のある業種の企業に最低でも1つは参加しましょう。就職活動に対する意識・考え方も変わるはずで、3年生の夏休みの過ごし方は重要であり、SPI試験対策や専門試験対策、企業研究、履歴書の試作等、やるべきことが盛りだくさんです。

5. オンラインでの就職活動における留意点

コロナ禍以降でも、対面形式に全て移行せずとオンライン形式を併用する企業が多いです。オンラインを中心とした就職活動では、大学や企業からの様々な情報を見逃さないように注意しましょう。企業の動きや同級生の活動状況が分からず、自分自身の就職活動の状態に不安を感じることもあると思います。就職指導担当の教員や所属する研究室の指導教員に相談したり、研究室の先輩の体験談を聞いたりすると方向性が見いだせるはずで、自ら積極的に情報収集を行うようにしましょう。

6. 大学院進学への勧め

海洋建築工学科では、毎年数多くの学部生が大学院へ進学しています。(表1)に示すように毎年3割程度は進学していて、理工学部内でも常にトップクラスです。大学院で更にレベルの高い学問を修得することにより、専門性を高めた仕事に就くことができます。是非、進学も視野に入れた進路を考えてみてください。

大学院の入試は、4年生の年の7月、9月、年明けの3月の3期に渡り実施されます。試験は筆記と面接になりますが、3年生までの成績による推薦入学もあるので、しっかり学修することを心がけましょう。

表3 就職活動スケジュール

| | | 3年生 / 修士1年生 | | | | | | | |
|------------|---|--|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
| キャリアデザイン授業 | (毎週水曜日5限:15週) | | | | | | | | |
| | ▼ ガイダンス(年間スケジュール確認、就職活動の注意事項等) ▼ 企業研究(意義とポイント) ▼ エントリーシートの書き方(自己分析) ▼ インターンシップ(参加対策、心構え) ▼ SPI等の試験対策講座 ▼ 内定者座談会(ゼネコン、設計事務所、コンサルタント) ▼ カイケンJOBスクール | ➡ 就活本格スタート | | | | | | | |
| 共催イベント | | | | | | | | | |
| | | ■ OBOGと学生の懇談会(8月上旬) ■ キャリア教育プログラム(大学院生のみ)9月～10月 | | | | | | | |

海と建築

vol. 31

フィッシャーマンズワーフ

フィッシャーマンズワーフ（漁師の波止場街）を名乗る場所は世界各地にあるが、米国サンフランシスコ（SF）の観光名所となっているそれが最も有名だろう。エビ、カニ、アサリなどのシーフードを味わえる飲食店が建ち並び、船溜りに係留された漁船群とともに、五感でウォーターフロントの賑わいを楽しめる場所である。

日本のウォーターフロント開発は、バブル期の1980年代後半より大都市でなく地方都市から徐々に始

まった。1989年にオープンした北海道の釧路フィッシャーマンズワーフは、その先駆的な役割を果たした事例として評価されている。地元出身の建築家・毛綱毅曠氏（もずなきこう）の代表作とも言えるこの建物は、釧路湿原に飛来する白鳥が両翼を広げた姿をデザインモチーフとしている。

能登半島の東海岸、石川県の七尾フィッシャーマンズワーフ（現在の正式名称は能登食祭市場）は、古い埠頭の上に建てられた飲食・物販施設である。軟弱地盤に対応するため、正面から見た中央部分の柱列で建物を支え、左右両サイドは荷重を逃がす「やじろべい構造」としている。1991年の開業当初（写真：右端）は、七尾湾に突き出すように建てられて海面が近かったが、その後、駐車場を確保するため周囲が埋め立てられてしまったのが残念である。

どちらの建築物も切妻屋根が連続する漁師町の雰囲気を再現するような外観デザインを施していて好ましい。

（特任教授 桜井慎一）



SF フィッシャーマンズワーフのシンボル

シーフード飲食店の賑わい



釧路フィッシャーマンズワーフ



開業当初の七尾フィッシャーマンズワーフ

学科イベントカレンダー

| 2025年 | | 2026年 | |
|----------------|--------------------|----------|-------------|
| 4月7日(月) | 新入生歓迎式 | 1月第一週 | 博士論文発表会 |
| 5月中旬 | 新入生オリエンテーション | 2月上旬 | 卒業研究発表会 |
| 7月中旬 | 「海と建築」ポスター発表会（1年生） | 2月中旬 | 修士論文審査会 |
| 夏季休暇中 | 海洋実習Ⅰ（1年生） | 3月4日(水) | 卒業・修了発表 |
| | 海洋実習Ⅱ（2年生） | 3月25日(水) | 卒業式（学位記伝達式） |
| 11月1日(土)~3日(月) | 桜理祭 | | |
| 12月4日(木) | 理工学部学術講演会 | | |



教員異動

着任：准教授 吉田毅郎 先生
 着任：客員教授 古谷章 先生
 着任：客員教授 竹内徹 先生
 着任：非常勤講師 小林昭男 先生
 着任：非常勤講師 田中厚三 先生
 着任：非常勤講師 朴世鎮 先生
 着任：非常勤講師 村山一美 先生
 着任：非常勤講師 横田拓也 先生

退任：助教 柴山淳 先生
 退任：特任教授 小林昭男 先生（4月より非常勤講師）
 退任：非常勤講師 古谷章 先生（4月より客員教授）
 退任：非常勤講師 鶴田伸介 先生
 退任：非常勤講師 玉上貴人 先生
 退任：非常勤講師 登川幸生 先生



カイケンマガジン No.123

発行者／福井剛 発行日／令和7年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
 日本大学理工学部海洋建築工学科教室
 Tel：047-469-5420（事務室）
 Fax：047-467-9446

編集委員：相田康洋、江川香奈
<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
 デザイン制作 — QB System Co.,LTD.